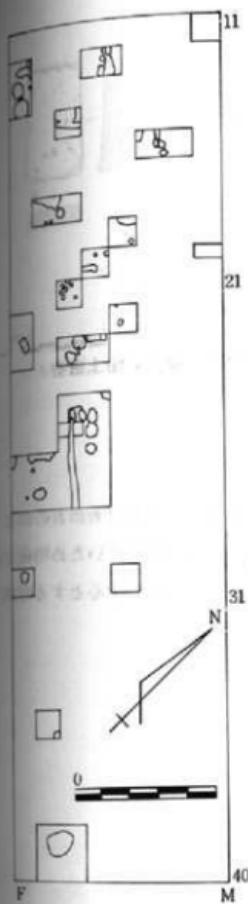


第57図 須走遺跡 全体図



第59図 須走遺跡調査区全図

ある。ほかには土錘・砥石などがある。これらの多くはピット内からの出土によるものである。

3 遺物 (第59図)

土器は、いわゆる「かわらけ」様の明褐色のもの(1・2)と、須恵器系の(さらに言えば珠洲系であろうか)鉢(5・6)・壺などがある。

1は直径118mm、器高およそ24mm、明褐色を呈し、胎土は細かく焼成は軟かい。内面の立ち上り部に細かい叩き目様の痕跡が見られる。観察によると、その他の部分はナデによって消されたものとの様である。

2は径100mm、器高およそ22mm、白褐色を呈し、胎土・焼成は1と同様である。燈明皿として使用されたものであり、口唇部に燈芯による煤が付着している。

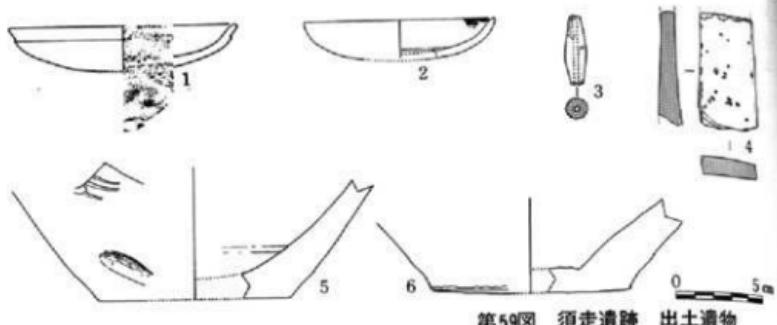
5はおそらくは壺鉢であろうと思われるもので、底径約100mm、立ち上り勾配約50度を測る。胎土は緻密で焼成は堅く、全体に赤味をおびた灰黒色を呈する。遺存部上端外面にヘラ状工具による3条の沈線が観察されるが、原形は不明である。

6は底径およそ103mm、立ち上り勾配約50度の壺であり、全体に暗褐色を呈する。

3の土錘は、長36mm、最大幅11mmの紡錘形を呈し、長軸にそって径2.5mmの直孔が穿たれている。褐色を呈し、焼成は不良である。全体に長軸方向に沿って削り調整を行なっているものと思われるが、磨滅が進み、さだかではない。

6は現長58mm、砂岩質の砥石であり、長軸方向両端部は欠損しているが、下端部には使用痕が通り、使用中すでに欠損していたことがわかる。上端割れ口を除いて全面に擦痕がみられる。

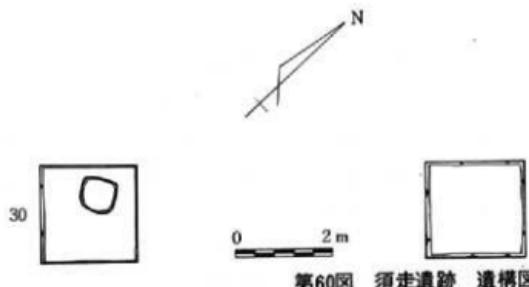
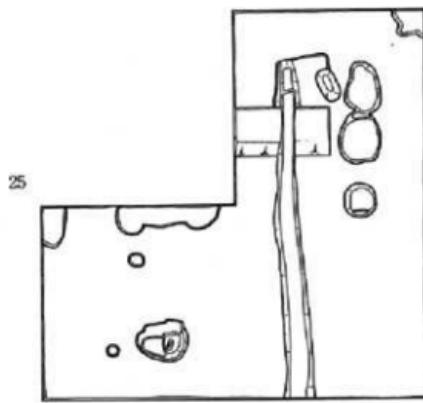
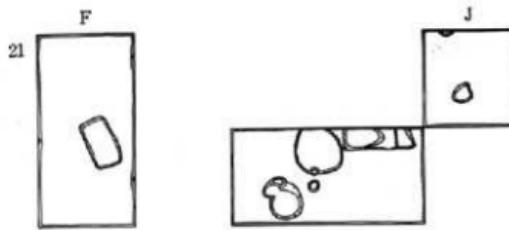
ほかにフイゴの羽口片がある。これは推定径87mmを測るもので、総体軟質であるが、口端部は高温のためガラス状に融解しており、カーボンの沈着が見られる。磨滅したため、内径は測定不能である。



第59図 須走遺跡 出土遺物

4まとめ

本遺跡は、ほとんどがピットによって構成されているが、調査期間内ではおののまとまりを把握することは出来なかった。年代に関してもまとまった遺物が少ないので明確な事は言えないが、凡そ古代末から中世頃にかけて、おそらくは鎌倉期を中心とする時期ではなかろうかと思われる。



第60図 須走遺跡 遺構図

第五章 土済遺跡

所在地	山形県東田川郡藤島町大字大半田字土済11番地
調査期間	昭和49年9月17日～10月5日（延13日間）
発掘面積	108m ²
調査者	佐藤正俊・佐藤鎮雄・名和達朗

1 遺跡の立地

本遺跡は、庄内平野の南部、南から北へ流れる赤川中流右岸の東へ大きく蛇する地点に位置し、約1.2km南へ行くと羽越本線があり、藤島町大半田部落の北方500mの場所にあたる。標高13～15mを計る平坦地に立地する。遺跡の北側は水田で、その他は果樹園（柿畠）と畑地となっている。

遺跡の現況は、昭和7・8年にかけて赤川の堤防を構築するさい、土取・削平が行なわれ、堤防として築れた。遺跡の北東側に比高1～1.5mのマウンド状に、当時の原形地を一部とどめているにすぎない現状である。地元では稲荷塚と称している。

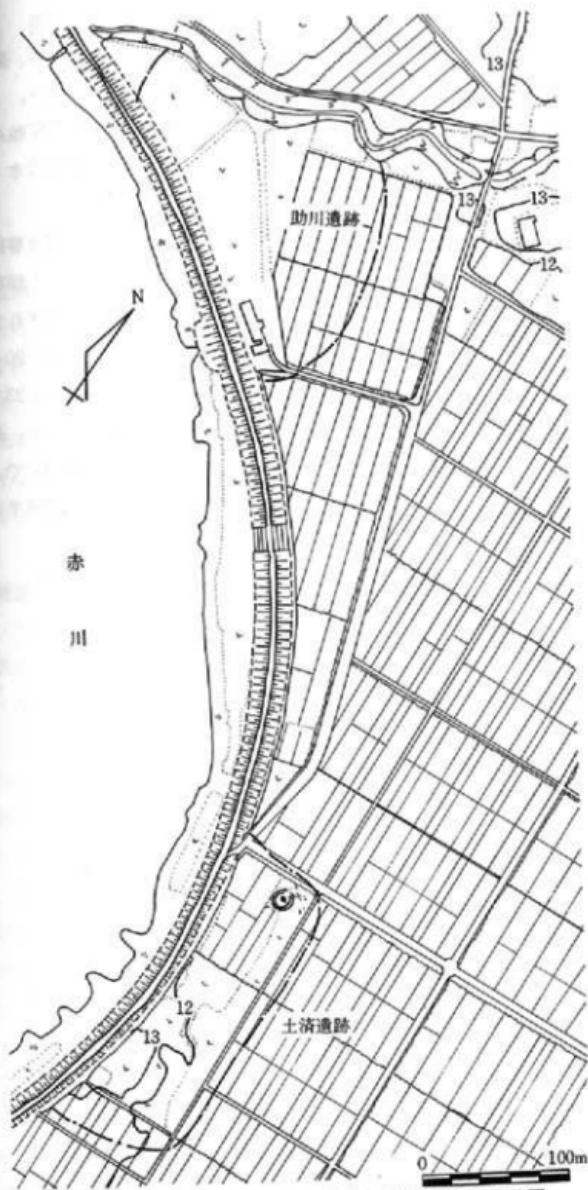
2 調査の経過

9月17・18日 器材の運搬・テント設営作業を行い、遺跡北側の休耕田となっている地点の草刈作業を行う。18日はさらに草刈作業を行い、グリッド法によるトレーナーをキズ状に設定する。北側から一部分掘り下げる。

9月19～21日、北側より掘り始め粗掘り作業。南北列J-1・2、5・6、9・10、…27・28、31・32グリッドの各4mおきに行う、東西列はD・E、H・I、M・N、Q・R-13グリッド・C・D-23、N・O-23を19・20日に調査を行う。20日は前日の作業に引き続いで行い、新たにJ-31・32グリッドの粗掘。土層の確認を行い旧河川跡を検出する。遺跡の東部（畠地）と南部（水田）の草刈作業を行う。グリッド設営作業。21日は新たに設定したC・D・K・-41、K-42、K-49、K-50、D-41、D-17・18グリッドの粗掘作業を行う。マウンド状になる稲荷塚のグリッド設定。

9月23～25日 稲荷塚に設定したグリッドを粗掘を行う。遺構は検出されず。さらに東側にかけ、遺物・遺構の検出を行なうが、酸化炎焼成土器細片、須恵器細片が少量出土のみで、いずれも地表地5～10mで検出されているため、本遺跡のグリッド掘作業を終了する。

10月1～3日、各グリッド精査・確認と写真撮影と土層の実測作業を行う。



第61図 土済・助川遺跡 全体図

3 発掘

調査の方法は、本遺跡自体昭和7・8年に堤防改修時に全壊しているため、調査の内容が、遺跡の時期とその推定範囲を主体とする確認調査を実施するにすぎない。

その方法は、遺跡内に 2×4 mのトレンチをグリッド状に配し、東西をX軸A～Z・イーロ、南北をY軸1～51とし、Y軸方向はN-4°～Wを計る。調査は東西3本・南北2本・稻荷塚に3本のトレンチを設定し、北側から南側にかけて調査を進める。

本遺跡の層序は、第Ⅰ層表土（水田耕作面）で褐色土（15～20cm）、第Ⅱ層砂層である遺物は土器片のみで、地表面とその下5～10cmの第Ⅰ層中に散在している。稻荷塚では第Ⅰ層表土（腐植土）が50～70cm堆積し、地山が黄褐色粘土で、遺物は検出されず。

遺物の出土状態は、稻荷塚周辺の地表面に散在し、J-9・10、16・17、20・21グリッド、D・E、H・I、M・N-13グリッド、J-24・25、C・D、M・N-23グリッド、ロ-17・18・29・30・41グリッドで土器片がそれぞれ10～20片出土している。遺跡全体として176片出土している。酸化炎焼成土器片104片、須恵器36片、不明36片で、器形を判断するにいたらず、詳細な時期は明確ではないが、平安時代後半（12世紀後半）と推定される。

造構はまったく検出されない。

第六章 助川遺跡

所在地	山形県東田川郡三川町大字助川字北畠65・78番地
調査期間	昭和49年9月26日～10月3日（延6日間）
発掘面積	96m ²
調査者	佐藤正俊・佐藤鎮雄・名和達朗

1 遺跡の立地

本遺跡は庄内平野の南部を流れる赤川中流右岸の東に大きく蛇行する所に位置し、標高13～15mを計り平地に立地する。三川町助川部落の南方200m、土済遺跡の北方450mの地点にあり、助川部落南部を流れる助川排水と赤川の合流点、三角地帯に位置する。

遺跡の現状は、土済遺跡と同様に昭和7・8年にかけて、赤川提防改修事業により、土取・削平が行なわれ、堤防として築かれ。遺跡の西部は畠地で、東部は水田（休耕田）となり荒地となっている。

2 調査の経過

9月26日 今回調査の対象となっている休耕田の草刈り作業を行なう。さらに、全面にグリッドを設定する作業を実施する。

9月27日～30日 27・28日は北側から南側にかけて順次2×4mのグリッドを粗掘をする。C-6・7・16・17・26・27、H-2・3・12・13・22・23、M-6・7・16・17・26・27グリッドを10m間隔で、遺構・遺物の検出状況を観察する。30cm掘り下げた時点で、西側半分をさらに50～70cm粗掘を行う。出土遺物はなし。30日は新たに、H-42・43、M-46・47、Q-52・53グリッドを南東側設定し、掘り進めて行く。

10月1日 前日のグリッド掘り作業を引き続行う。同時に各グリッドの精査を行うが、遺構・遺物がまったく検出されないため、本遺跡のグリッド掘り作業を中止する。

10月2・3日 土済遺跡と並行して、各グリッドの写撮影および土層の実測作業を行う。

10月4・5日 4日は器材整理と土済・助川遺跡の若干の実測作業を行う。

5日は器材の撤収と山形市までの器材を運搬する。

3 発掘

調査の内容は、土済遺跡と同様に確認調査を主体とするもので、その方法は、今回の調査（水田部）に、2×4mのグリッドをトレンチ状に配し、東西をX軸A～T、南北を

Y軸1~60として、Y軸方向N-12°-Eを計る。調査は16~20m間隔でグリッド掘を組み、粗掘作業を実施する。

遺跡の層序は、80~90cmまで掘り下げるが、若干の色調の相異がある程度で、一様に水平の状態で砂層が堆積している。遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

第七章 総 括

以上第六章まで、赤川右岸より京田川左岸に至る圃場整備地区の関連 5 遺跡について報告してきた。庄内平野は、江戸時代以降数度にわたって土地改良事業が行なわれ、一般に遺跡の包含層の削平が著しい。本地区も例外ではなく、各遺跡においても包含層ないし、遺構面の削平が認められた。発掘調査において、調査日数の制限とともに、これらが大きな障害となっている。しかしながら一方、それなりの成果もあげ得たように思う。

最初に造構の時期についてであるが、『山形県遺跡地名表』にも見られる如く、これまで各遺跡は一括して平安時代として捉えられてきた。

これに対し、今回の調査結果からわれわれは、4 遺跡から出土する須恵器および酸化炎焼成の須恵系土器について、12世紀から13世紀（平安時代末から鎌倉時代）の年代を想定したいと思う。須恵系土器の坏ないし燈明皿形土器は、時期的にさらに細分され、返吉遺跡や土済遺跡の坏形土器は12世紀代に、平形遺跡や横川B 遺跡の燈明皿形土器は13世紀代に北定できる可能性をもつ。これらの内容は、各遺跡の遺物ないしまとめる項目で述べてある。また各遺跡の表土近くからは、陶質の土器も出土している。これらについては、須恵系土器よりもさらに新しい時期のものとみられる。年代的には不明である。

つぎに造構については、平形遺跡で溝状造構とピット群および土壤が、横川B 遺跡で溝状造構とピット群および土壤が、須走遺跡でピット群等が検出されている。土済遺跡、助川遺跡では、造構が検出されなかった。

これらの造構の性格は、一部建物跡を構成すると考えられるものもあるが、おおくは明らかでない。試掘程度の小拡張ではなく、広範囲の発掘調査が必要である。ともあれ庄内地方におけるこの時期の遺跡の調査は、ようやく緒についた段階であり、今後の調査研究が待たれる。

—第 IV 部—

第IV部

庄内東部広域営農団地農道整備事業関係遺跡調査

第1章 調査に至る経過

庄内広域農業整備事業（以下庄内スーパー農道と略称）は、朝日村熊出から遊佐町吹浦まで総延長58.73kmにわたる幹線道路である。出羽丘陵に添って南北に長く走り、櫛引町黒川から羽黒町地元組までと遊佐町吹浦地区で丘陵の先端を通るほかは、ほとんど庄内平野の水田を縱断することになる。関連する市町村は、南から朝日村・櫛引町・羽黒町・藤島町・余目町・平田町・酒田市・八幡町・遊佐町の八市町村におよぶ。

昭和47年12月に山形県農林部から県教育委員会に、庄内スーパー農道関係遺跡の問い合わせがあり、これにもとづいて昭和48年県教育委員会が遺跡の分布調査を実施した。調査の結果、スーパー農道路線を中心とする2km幅内に、120ヶ所の遺跡が確認された。なおうち86ヶ所は新しく発見されたものである。遺跡は丘陵先端には縄文時代のものが多く、水田地帯には平安時代末から鎌倉時代のものが多く分布する。スーパー農道予定路線に含まれる遺跡は総計20ヶ所で、このうち既工事によって破壊されたもの2ヶ所、試掘調査で通路の縁辺をかすめる程度とわかった7ヶ所を除く11ヶ所が今後保存対策を要する（註一）。

庄内スーパー農道の工事は、現在朝日村から余目町付近まで進行しているが、このうち昭和49年度に櫛引町三壁林E遺跡・同丸山遺跡、昭和50年度に羽黒町村中遺跡の三ヶ所の発掘調査を実施した。本報告書では昭和49年度に実施した櫛引町三壁林E遺跡・同丸山遺跡の報告を行なう。なおこの他の遺跡については今後適切な保存処置をとり、発掘調査等を実施した場合は、順次報告書を刊行する予定である。

三壁林E遺跡と丸山遺跡の発掘調査は、場所が比較的近接しているため昭和49年5月から6月にかけて継続して行なった。両遺跡とも縄文時代の遺跡で遺物が広範囲に散布するが、昭和48年に実施した試掘調査の結果では遺物包含層がやや薄いことが確認されている。ただし三壁林E遺跡では、同じ試掘調査で竪穴住居跡の一部が検出されている。

註一 山形県教育委員会 1974 『庄内広域農業整備事業関係遺跡分布調査報告書』（山形県編
文化財調査報告書第一集）



第62図 庄内東部広域農業整備事業関係施設位置図

第2章 三穂林E遺跡

所在地 東田川郡引町大字黒川字三穂林330-1番地他

調査期間 昭和49年5月14日～6月20日（延30日間）

発掘面積 490m²

調査者 佐藤庄一・尾形典・舟山良一・佐藤正俊

1 遺跡の立地

三穂林E遺跡は、庄内平野の南端、鶴岡市の東南9kmにある。月山の火山泥流によって形成された舌状地、通称平田山の北西端に立地する。遺跡は東から西にかけて緩やかに傾斜し、北側は急激な斜面となってその150m先を赤川の支流田沢川が流れている。標高約98mを測る。地目は現在果樹園および荒地となっているが、雜木を抜採したあとに遺物が散在しており、その範囲は東西60m、南北35mにおよぶ。庄内スーパー農道はこの舌状地の舌側を南北に縦断する（第62・63図）。

2 調査の経過

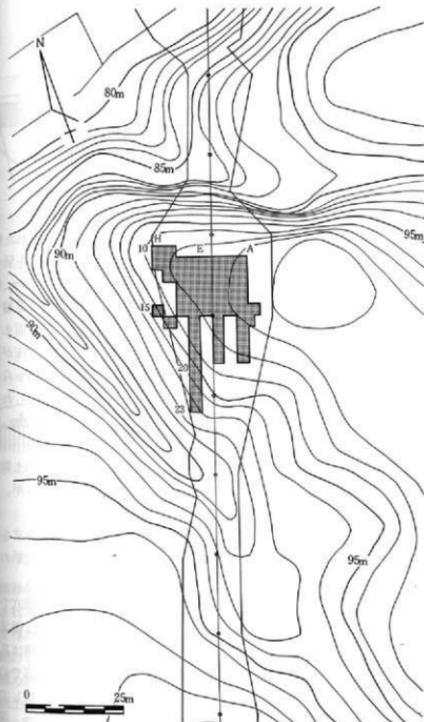
庄内スーパー農道の通常の路線幅は約10mであるが、本遺跡の個所は切り通し作業になるため最大幅で30mに達する。調査は遺跡のうち路線にかかる全域を対象に南北56m×東西27mの発掘区を設定し、さらに3m四方のグリッド毎に細分した。南北方向は北から1・2・……、東南方向は東からA・B・……とつけ、各グリッドはたとえば「E-15区」のように呼称する。5週間の調査期間のうちほぼ2週間に粗掘り、つぎの2週間に造構精査、最後の1週間に図面作製の作業を行なった。

3 発掘

遺跡の地層はほぼ4つに大別される。上から第Ⅰ層一褐色粘土、第Ⅱ層一明褐色粘質砂、第Ⅲ層一濁黃褐色粘質微砂、第Ⅳ層一黃褐色粘土である。第Ⅱ層が遺物包含層で、第Ⅳ層は無遺物層である。耕作等による削平が著しく包含層は薄い（第65図）。

造構は発掘区の北側に集中して竪穴式住居跡4棟、土塙5基、ピット50個等が検出された。第3～5号土塙を除く他の造構はほとんど縄文時代のものである。造構は舌状地の先端標高96～98mの等高線に添った形で分布する（第64図）。

出土遺物は縄文時代中期前半と後、晩の土器および石器等であるが、上記造構の検出地域と出土地域がほぼ一致する。



第63図 三穂林E遺跡 全体図



I 層 黒褐色微砂 (表I) II 層 暗褐色微砂 III 層 黄褐色粘土
1層 黒褐色粘土質微砂 第65図 三穂林E遺跡 層序図
2層 暗褐色微砂質粘土

4 遺構

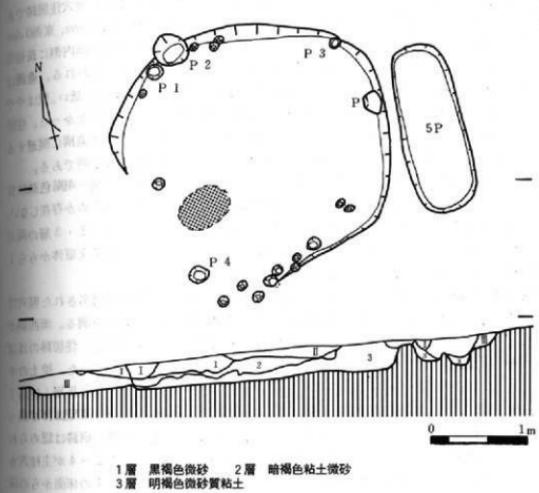
1号住居跡（第66図、図版54） 発掘区北側西寄りE・F-13・14区で検出された整穴性居跡である。平面プランは西南隅が削られて検出できなかったがほぼ五角形を呈し、南北2.5m、東西2.7mを測る。南北軸の方向はほぼ磁北を示す。西壁寄りに長径55cm、短径30cmの楕円状の焼土があり、下面が強く焼けている。地床炉と思われる。遺構はⅢ層一黒褐色微砂およびⅣ層一黄褐色粘土（地山）を掘り込んでおり、床面から遺構底面までの高さは30cm弱である。壁はほぼ真っ直ぐに立ち上がる。床面は東南隅に一部貼り床が残っているが、その他は比較的軟かい。住居跡内のピットは19個発見されたが、形態からみてピット1～4が主柱跡を構成し、その他のピットは遺構穴の内役割を持つと考えられる。柱り方と柱痕の区別は認められなかった。住居跡のすぐ東に南北1.7m、東西約0.6m、深さ5cmの土壤（第5号土壤）がある。

住居跡内の覆土は3層に分かれ、上から1層一黒褐色微砂、2層一暗褐色粘土質微砂、3層一明褐色微砂質粘土となる。遺物は1～3層まですべてに包含されているが、とくに2・3層に多い。

遺物は绳文式土器およびフレイクが約70片出土した。土器は体部上半に撲糸文を押印した文様を特徴とするものである（第72図、図版59）。また住居跡東壁に接して完形の小形鉢（第71図、図版59）が発見された。

2号窓穴（第70図、図版55） 発掘区北西隅F・G-11区で検出された小整穴である。平面プランはほぼ橿円形を呈し、長径2.35m、短径2.0mを測る。長軸の方向は磁北よりやや西に傾く。底面西壁を切って長径90cm、深さ10cmの落込みを有する。遺構はⅢ層およびⅣ層（地山）を掘り込んで作られ、底面から遺構底面までの高さは最深部で約50cm、壁の断面は梯形を呈する。底面は比較的軟かく、強く焼けている。南壁に接して長径25cmの円窓が1個火熱を受けた状態で検出された。小整穴の南西部に長径20cm、深さ10cmの円形のピットが1個認められた。

小整穴内の覆土は5層に分かれ、1層一黒褐色微砂、2層一暗褐色粘土質微砂、3層一明褐色微砂質粘土、4層一黒色炭化物、5層一明赤褐色焼土となる。遺物は1～4層まで



1層 黒褐色微砂 2層 暗褐色粘土質砂
3層 明褐色微砂質粘土

第66図 三穂林E遺跡 1号住居跡

明褐色微砂質粘土、4層一黒色炭化物、5層一明赤褐色焼土となる。遺物は1～4層までに包含されるが、とくに2層に多い。遺物は绳文式土器とフレイク約10片出土した。細片が多く文様の識別できるものはほとんどないが、器形や撲糸文原体から1号住居跡とはほぼ同じ時期のものと考えられる（第73図、図版59）。

本遺構の特徴は覆土4・5層の堆積状態である。小整穴中央部下面に20～30cmの厚さをもつて焼土層が、上面に10～25cmの厚さで炭化物層が堆積している。当初の平面プラン確認段階では整穴住居跡と推定し発掘を進めたが、遺構の形態および覆土の様相からは否定的である。またこれら炭化物および焼土層は、覆土1～3層の埋積後第二次的に掘り込まれた可能性をもつ。ただしその場合も遺物からみて1号住居跡と大差ない時期に限定される。

3号住居跡（第70図・図版55） 2号小竪穴のすぐ東E 11区で検出された竪穴住居跡である。西側が削平され東壁の一部が残っているだけであるが、検出径は南北2.0m、東西0.5mを測る。造構の南側は新しい時期の溝によって切られている。東壁の約70cm内側に長径5cm、短径38cmの楕円状の焼土があり、下面が一部焼けていた。地床炉と思われる。造構はIV層（地山）を掘り込んでおり、床面から造構検出面までの高さは10cm弱と低い。壁はややゆるやかに立ち上がる。床面は比較的軟かく、貼り床等の痕跡は認められなかった。住居跡内のピットは5個発見されているが、南側溝内に残る3個のピットも本造構に関連する可能性を持つ。掘り方と柱痕の区別は認められなかった。柱穴の構成は不明である。

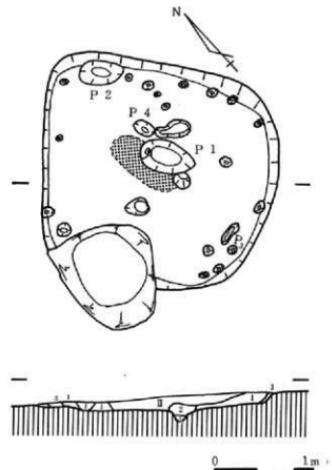
住居跡内の覆土は2層に分かれ、上から2層一暗褐色粘土質微砂、3層一明褐色微砂質粘土となる。各造構にはほぼ共通して見られる覆土1層は、削平が著しいためか存在しない。

出土した遺物は、縄文式土器とフレイク合わせて9片と極めて少ない。2・3層の両方から出土する。土器は細片だけで文様構成の識別できるものないが、撲糸文原体から1号住居跡とほぼ同じ時期に属するものと考えられる。

4号住居跡（第67図・図版56） 1号住居跡の東約2.5mD-13・14区で検出された竪穴住居跡である。平面プランは不整の隅丸方形を呈し、南北2.2m、東西2.4mを測る。南西隅が後世の落ち込みによって切られている。南北軸の方向は45度近く東に傾く。住居跡にはほぼ中央部に長径55cm、短径約35cmの楕円状の焼土があり、下面が一部焼けていた。焼土のすぐ北東部に10cm程の掘り込み（ピット）を持つ。地床炉と思われる。造構はIV層（地山）を掘り込んでおり、床面から造構検出面までの高さは15cm弱と低い。壁は東壁はほぼ真っ直ぐに、西壁はややゆるやかに立ち上がる。床面は比較的軟く貼り床等の痕跡は認められなかった。住居跡内のピットは26個発見されたが、形態からみてピット2~4が主柱穴を構成し、他のピットは壁柱穴的な役割を持つと考えられる。ピット2~4の床面からの深さは約17cmである。掘り方と柱痕の区別は認められなかった。

住居跡内の覆土は3層に分かれ、上から1層一濁黃褐色粘土質微砂、2層一黒褐色微砂、3層一明褐色微砂質粘土となる。1・2層に遺物と炭化物を含むがとくに1層に多い。遺物は縄文式土器およびフレイクが17片出土した。土器は細片5個のみである。

5号住居跡（第70図・図版56） 2号小竪穴の北西隣G-10・11区で検出された竪穴住居跡である。平面プランは西側が削平されて検出できなかったがほぼ不整の方形を呈し、南北2.4m、東西検出径2.3mを測る。住居跡内やや南東寄りに約50cm四方の隅丸方形の焼土があり、下面が焼けていた。焼土内中央に小形深鉢の口縁部を利用した埋設土器が発見された。埋設土器を伴う地床炉と思われる。造構はIV層（地山）を掘り込んで作られており、



第67図 三穂林E遺跡 4号住居跡
1層 濁黃褐色粘土質微砂
2層 黒褐色微砂
3層 明褐色微砂質粘土

床面から造構検出面までの高さは約30cmを測る。壁は各壁ともほぼ真っ直ぐに立ち上がる。床面は住居跡の東側全面が固く叩きしめられた貼り床を有する。西側は床面は耕作等の削平により不明である。住居跡内のピットは19個発見されたが、形態からみてピット1~3が主柱穴を構成し、その他のピットは壁柱穴的な役割を持つと考えられる。ピット1~3の深さは30cm前後である。掘り方と柱痕の区別は認められなかった。

住居跡内の覆土は3層に分かれ、上からⅡ層一濁黃褐色粘土質微砂、Ⅰ層一黒褐色微砂、Ⅲ層一明褐色微砂質粘土となる。遺物はⅡ層および覆土1層に包含されるが、とくに1層に多い。

遺物は縄文式土器およびフレイクが約50片出土した。比較的薄手で外面に丁寧なヘラミガキをもつ土器が主体を占めるが、部体上半に撲糸文を押したるものも若干含まれている（第72図・図版59）。時期的には1・3・4号住居跡より新しいもののと考えられる。

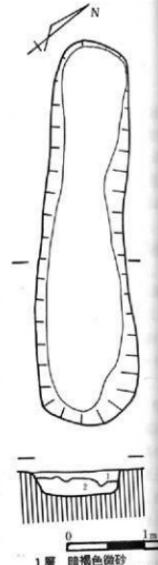
3号土壌 (第68図・図版57) 発掘区域北端C・D-11・12区で検出された長楕円形の土壌である。南北約0.9m、東西3.8mを測り、長軸の方向は大きく西に傾く。造構はIV層(地山)を掘り込んでおり、底から造構検出面までの高さは25cmである。壁はほぼ真っ直ぐに立ち上がる。底面は平らで比較的しまっている。土壌内北に直径10cmの円窓が1個検出された。また南東隅に直径40cm、深さ18cmの円形のビットがあるが、覆土からみて本土壌より新しい時期のものである。

3号土壌の覆土は2層に分けられ、上層が暗褐色微砂、下層が黄褐色粘土質微砂である。上層は遺物・炭化物・粘土粒を多く含みしまっている。下層には遺物を含まない。遺物は織文式土器とフレイク合わせて10片と少ない。土器は細片で文様のわかるものはないが、胎土に石英を多く含む。土壌の性格は不明である。

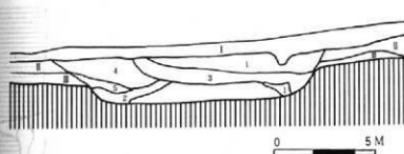
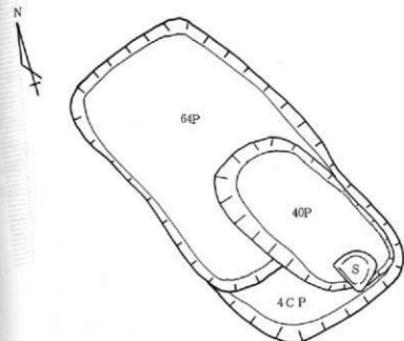
4号土壌 (第69図・図版58) 発掘区東端Z・A-15・16区で検出された隅丸長方形の土壌である。南北3.5m、東西約1.8mを測り、長軸の方向は磁北よりやや西に傾く。造構はII層一明褐色微砂から掘り込まれており、底から造構検出面までの高さは約5cmである。周壁は上半がやや外反する形で立ち上がる。底面は平らで比較的しまっている。土壌の周囲には、土壌をとり囲むように直径15cm前後のビットが検出された。

4号土壌の覆土は5層に分けられ、1~3層に炭化物を多く含む。4号土壌は発掘の過程で覆土等から三つ土壌に細分できた。4a土壌はもっとも新しい時期に掘り込まれたもので、南北1.8m、東西1.0m、深さ約20cmを測る。覆土に炭化物が多く含み、東側に長径50cmの楕円形の窓が認められた。遺物は発見されていない。4b土壌は、南北2.7m、東西約1.7m、深さ18cmを測り、少量の炭化物を含む。遺物は発見されなかった。4c土壌はもっとも古い時期に掘り込まれたもので、4a・4b土壌によつて切られているため大きさは不明である。深さは約40cmを測る。覆土は粘土ブロックを多く含む微砂質粘土である。5層からフレイクが数個発見された。

4号土壌は、覆土等からみて三穂林E遺跡の他の造構とは大幅に時期を異にするものである。

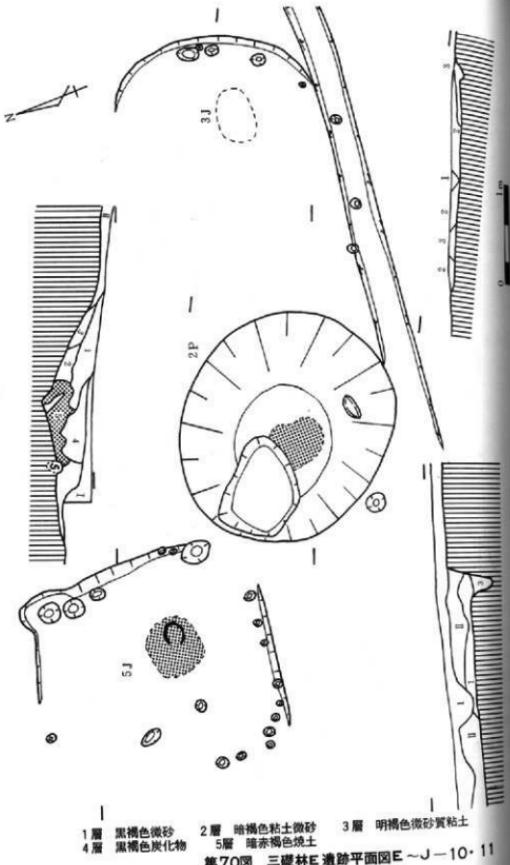


第68図 3号土壌



第69図 三穂林E遺跡 4号土壌

ある。4c土壌で出土したフレイクは後世の混入によるものと考えられる。伴出遺物がないため土壌の性格や時期は明らかでないが、近年の炭焼き窯にも一部類似する点を持つ。



第70図 三穂林E 遺跡平面図E ~J-10・11

ピット群（第70図）

三穂林E 遺跡の発掘区北半部からは約50個のピットが検出されている。ピットのうち直径130cm、深さ40cm前後の円形の落ち込みは、覆土から最近の樹の抜根による掘り方と考えられる。ピット7・8・12・13・55がこれに該当する。

その他のピットは覆土が2~3層に分かれ、上層の暗褐色微砂から遺物が多く出土する。遺物は縄文式土器・フレイク等で、ピット17(図版)、18・42からとくに多く出土する。土器は底部上半に撚糸文を押した文様やL字状の沈線文を特徴とする。

5 遺物

三穂林E 遺跡からは、土器・石器合わせて小型整理箱8箱分出土している。土器と鉄を含めた石器の量はほぼ同じである。ほとんどが発掘区北側から出土している。

土器 (第71~73図・図版59)

後世の削平が著しく、包含層および遺構内とも土器の出土量は極めて少ない。ここでは包含層および遺構内の土器を一括して記述し、適宜各遺構の遺物について触れる。



第71図 三穂林E 遺跡土器実測図

土器は器形から、浅鉢形土器と深鉢形土器に大別され、さらに施文技法等によってつる各類に細分できる。

浅鉢形土器

口径に比して器高が低く、口縁部から体部にかけてやや丸味をもつものである。浅鉢形土器は、施文技法等からつぎの2類に分類できる。

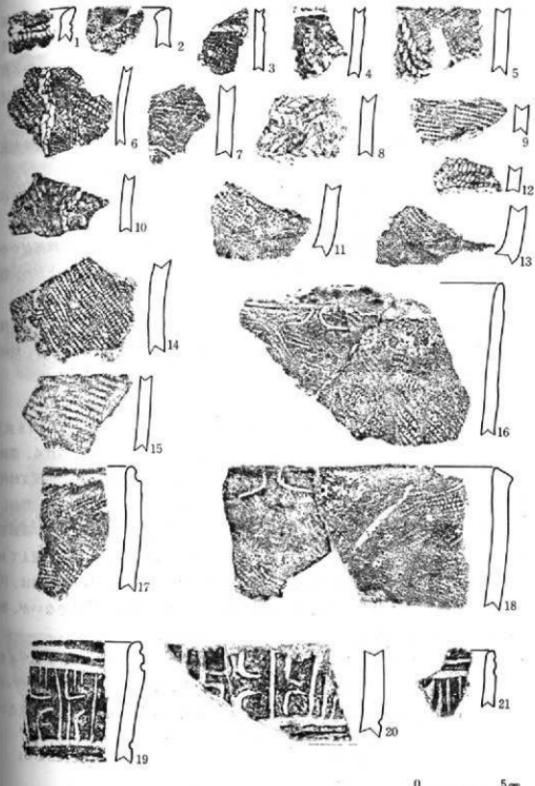
I類 口縁部から体部にかけて、押圧捺糸文による文様を有するもの。第1図は1号住跡床面から出土した完形の浅鉢形土器で、口縁部に隠帯を伴う横位の押圧捺糸文が、体部上半に弧状の押圧捺糸文が施されている。文様は6単位で一周する。平縁で、口縁部がく内凹し、体部はやや丸味をおびて立ち上がる。地文はやや短い原体による斜繩文が施されている(1・2)。

II類 体部に結節繩文を有するもの(3~15)。口縁部の形態や文様は不明で、工類に伴う可能性をもつ。焼成は比較的良好で、内面にヘラミガキを有する。

深鉢形土器

口径に比して器高が高く、口辺部がほぼ真直ぐ立ち上がるものである。深鉢形土器は施文技法等からつぎの6類に分類できる。

I類 口縁部から体部上半にかけて、ヘラ状工具による沈線文を有するもの。沈線は平行線およびし字形の組合せ文様を基本とし、(a)口縁部にのみ文様を有するもの(16~18)と、(b)口縁部から体部上半にかけて文様が展開するもの(19~21)、の二種がある。両類とも平縁で、口辺部がほぼ真直ぐに立ち上がる。地文はやや短い原体による斜繩文が施されている。



第72図 三穂林E 遺跡 土器拓影図(1)

II類 口縁部に押圧撚糸文を有するもの。押圧撚糸文は横位に二条施されている。口唇部は、ヘラ状工具の押圧によって波状をなすもの(22・25)、平線のもの(23・24)の二種がある。口部はほぼ真直ぐに立ち上がる。口縁部から体部全面にかけて斜撚文が施される。焼成は比較的良好で、内面にヘラミガキを有する。外面にはおおく炭化物の附着が認められる。

III類 口縁部に陰帶を有し、さらに押圧撚糸文が施されるもの。押圧撚糸文は、陰帶の上下に横方向で二条施されている(26)。口唇部には平坦な棱を有する。

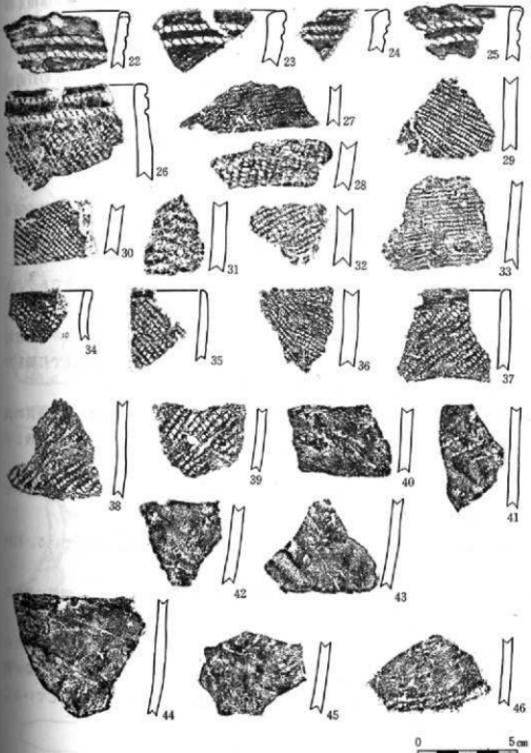
IV類 体部に結節撚文を有するものを一括する。傾きはほぼ真直ぐである。口縁部の形態や文様は不明で、I～III類に伴う可能性をもつ(27～30)。

V類 口縁部から体部外面全体に撚文を有するもの。本類はさらに、(a) 口縁部がやや丸味をもち、器厚が比較的厚いもの(31～36)と、(b) 口縁部が真直ぐ立ち上がり、器厚が比較的薄いもの(37～39)、の二類に細分される。

VI類 口縁部から体部の外面全体に、ヘラミガキが施されるもの。40～45は、5号住居跡の炉内に埋設されていたもので、外面に一部丹塗の痕が認められる。比較的薄手で、焼成は良好である。表面に炭化物の附着が認められる。

これらの土器のうち、浅鉢形土器I類は、器形・文様ともに縄文時代中期「大木76式」に併行するもので、県内では上山市牧野遺跡(註一)にまとまった資料がみられる。深鉢形土器II類もこの仲間に属するものである。深鉢形土器I a、I b類は眉形の縄文時代前期末葉からの系譜を引き継ぐものである。文様的に、I a類は浅鉢形土器I類に類似し、またII a類も上ノ山・牧野遺跡、鶴岡市岡山遺跡(註二)で共存状況が認められる。深鉢形土器I類の明確な時期決定はできないが、一応浅鉢形土器I類に並行するものと捉えておきたい。III類は、浅鉢形土器I類と類似するが、口縁部に粘土陰帶を貼付する手法は、円筒式土器の影響をうかがわせる。V a類は細片のみで、全体の器形は明らかでないが、胎土や焼成は上記の各類に共通点が多い。

V b類とVI類は、胎土や焼成において明らかにこれまでの土器とは、時期を異にするものである。出土地点も5号住居跡とビット17・29の3箇所に限られる。施文が撚文やヘラミガキだけで、明確な時期決定は困難であり、大きく縄文時代後・晩期と捉えておきたい。



第73図 三穂林E遺跡 土器拓影図(2)

石器（第74図）

本遺跡出土の石器も、土器と同じように極めて量が少ない。剝片も含め小型整理箱4箱ほどで、そのうち定形化した石器は16点にすぎない。形態的にはナイフ形石器、石錐、直状石器、不定形石器、磨製石斧、凹石、磨石等がある。

ナイフ形石器（1） 長さ10cm、最大幅32cmのナイフ形石器である。縦長剝片の打面を調整して基部とし、刃部は一次剝離面をそのまま利用している。石材は硬質の頁岩である。発掘区北端部の表土中から1点出土した。本石器は形態から旧石器時代に属する遺物と考えられる。発掘において、遺跡の黄褐色粘土層を一部1m程深掘りしたが、これに類似する遺物は認められなかった。

石錐（2～4） 3点出土している。2・3は基部に抉りをもち、下半の肩がやや張る石錐である。4は基部が欠損している。石材は2・4が硬質の頁岩、3が黒曜である。

直状石器（5～8） 5点出土している。石材はすべて硬質の頁岩である。直状石器は、形態から3類に分けられる。I類は、長さに比して幅が狭く棒状を呈するものである（5）。打面を上部に残し、両面が丁寧に二次加工されている。断面はレンズ状を呈する。II類は、基部に比し刃部の幅が広い棒形を呈するものである（8）。刃部が一次剝離面のまま急角度を示す、トランシエ様のものである。2点出土している。III類は、両面加工で打製石斧状のものである。（6・7）。刃部に使用による磨滅痕が認められる。

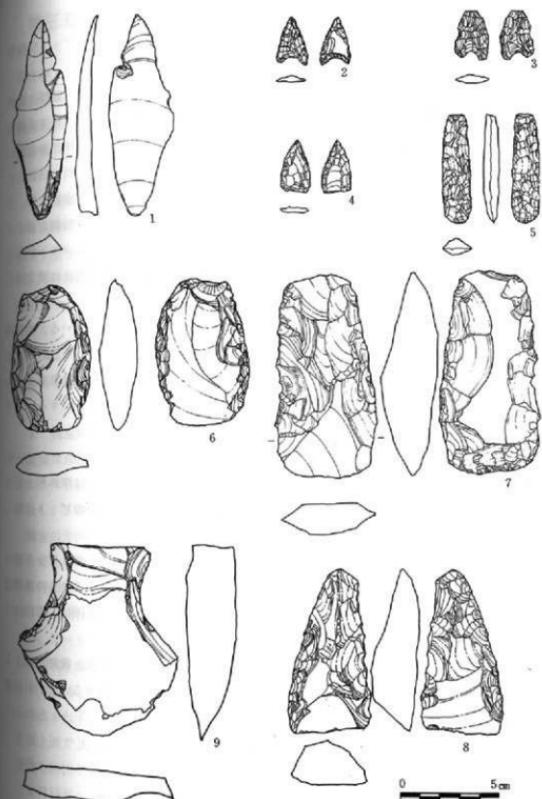
不定形石器 剥片の一部に二次加工を施した不定形の石器である。石材はすべて硬質の頁岩で、3点出土している。9は形態が斧状を呈するが、先端部に一次剝離面を多く残しており、定形化した石斧とは認めがたい。

磨製石斧 2点出土している。断面が船形を呈し、全面に研磨が認められる。石材はいずれも石英粗面岩である。

凹石 球形の円錐の両面に1～2個の孔を穿ったものである。1点出土している。石材は砂岩である。

磨石 長さ16cm、幅7cm、厚さ5cmの半月形の磨石が1点出土している。四面に様をもち、とくに側片部の磨減が著しい。

三櫛林E遺跡からは、このほか黒曜石の剥片が比較的多く出土している。定形化した石器として検出されたのは、3の石錐のみであるが、本来はかなりの黒曜石による石器が作されたものと思われる。黒曜石の原石は、近年本遺跡近くの月山山系に露呈していることが知られている。



第74図 三櫛林E遺跡 石器実測図

6まとめ

- (1) 発掘調査の結果、三礎林E遺跡からは竪穴式住居跡4棟、土塁5基、ピット50個が発見された。
- (2) 遺構の時期 1号住居跡は、床面および覆土中から、浅鉢形土器I・II類、深鉢形土器I b・II・V a類が検出され、縄文時代中期前半「大木7b式」に並行する時期が考えられる。3号住居跡からは、浅鉢形土器II類、深鉢形土器V a類が検出されている。いずれも体部小片で、時期は明らかでないが、1号住居跡出土の土器群に包括されることから、ほぼ同じ頃の時期が推定される。4号住居跡からは、浅鉢形土器1個、深鉢形土器V a類が検出されている。本住居跡も1号住居跡とほぼ同じ頃の時期が推定される。5号住居跡からは、浅鉢形土器II類、深鉢形土器VI類が検出されている。埋土器からみて、後者の深鉢形土器VI類を主とするものと考えられ、時期的には縄文時代後、晩期と推定される。
- 2号小窓穴からは、浅鉢形土器I・II類、深鉢形土器IV類が検出されている。本遺跡も1号住居跡と同じ頃の時期が考えられる。3号土壙からは、文様のわかる土器は出土していないが、胎土および焼成は浅鉢形土器II類に近い。4号土壙の遺物はフレイクのみであるが、覆土の状態からみて、本遺跡の他の土壙とは大きく時期を異にする。おそらく近世のものであろう。
- ピット群のうち、ピット5・18・32・42からは深鉢形土器I b・V a類出土している。1号住居跡とほぼ並行する時期のものであろう。またピット17・29からは深鉢形土器類が出土する。5号住居跡とほぼ並行する時期のものであろう。その他のピットに関しては、時期識別の資料がなく不明である。
- (3) 出土遺物の検討から、1・3・4号住居跡、2号小窓穴、3号土壙、ピット群の一部は、縄文時代中期前半に属する時期のものであることがわかった。これらの遺構は舌状地の先端、標高96~98mの等高線に沿った形で分布する。遺跡の範囲は、舌状地の東側にさらに広がるものと思われる。
- (4) 5号住居跡とピット群の一部は、上記遺構より新しく縄文時代後、晩期に属する時期のものであることがわかった。表面採集品には、この時期頃に属すると思われる石器も数点あり、今後の検討を要する。

註一 柏倉亮吉、牧野遺跡 山形県史考古資料 昭和44年

註二 佐藤謹雄他 岡山遺跡 山形県埋蔵文化財調査報告書第4集 昭和50年

第三章 丸山遺跡

所在地	山形県東田川郡柳引町大字黒川字上堤35番地
調査期間	昭和49年6月13日~6月29日 (延13日間)
発掘面積	540m ²
調査者	佐藤正俊、佐藤庄一、尾形與典

1 遺跡の立地 (第75図・図版60)

本遺跡は、庄内平野の南部、ほぼ南北に達する出羽丘陵の西方部末端に位置し、西方に赤川を望む標高80~100mを計る。遺跡自体は北・南部で小支谷が開折し、樹皮状に入りこむ丘陵の急斜面にある。今回の調査地区は、北部に突出する南側の急斜面と北側のやや平坦部が存在する地区である。中央部は、上堤と呼ばれる西方より入り込む支谷が鞍部となっている。

現在は北側で果樹園(柿畠)、南側で畠地となつていて。なお、東部および南部では、水田開拓事業のため一部削平されている。

2 調査の経過

調査の方法は、スーパー農道施行区域内に南北X軸方向に26m・東西Y軸方向90mを取り、2×2mを1単位とするグリッド法をもちいた。X軸方向をA~M・Y軸方向1~45と称し、Y軸方向はN~45°~Wを測る。

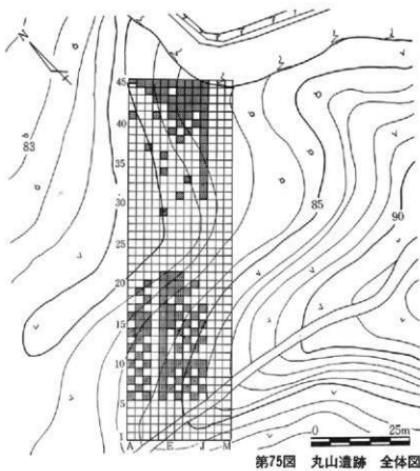
調査の方向は、南側をA地区、北側をB地区に分け、A地区より順に交互にグリッド掘り作業を進め、遺構の確認地点および遺物分布の濃密な地区を順次拡張する方法をとつた。

6月13日~18日

13日は三礎林E遺跡からの器材運搬、テント設営作業を行ない、A地区的農道坑を基点として、E~E-5グリッド坑を設定し、10mごとにキ印状に基本坑を設定する。14日 A地区における坑を設定し、E-5~20列からグリッド掘り作業を開始し、さらにF~J-10グリッドを掘る。その結果、地表面より20~30cmで第Ⅳ層黄褐色土(地山)にたつし、出土遺物も検出されず、北側へ交互にグリッド掘り作業を進める。17日 B-C-14~15グリッドでⅣ層上面で土壤を確認し、完掘する。E-G-21グリッドまで作業を進めた時点で、遺物も検出されないため、18日にA地区的グリッド掘り作業を中止する。

6月19日~25日

19日からは、A-J-45・J-31~44グリッドの作業を開始。G~J-42~45グリッドで、



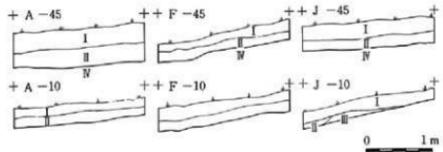
第75図 丸山遺跡 全体図

第Ⅱ層黒褐色土中より土器片・石器が多く出土したため、その付近のグリッドを拡張する。19日はI-43・J-42グリッドで砾石をそれぞれ1点検し、21日はF・G-41・42グリッド内で第Ⅳ層上面で1号土壤を検出する。22日～25日にかけて、遺物の分布状況を調べるために北側と西側にグリッド拡張作業を行うが、若干の遺物が認められる程度で、25日にはグリッド掘り作業を中止する。

6月26日～6月29日

E-6～21・F～J-10・A～J-45・J-31～45グリッドの各土層セクションおよび2基の土壤の実測を行う。さらに各グリッドの精査追究作業を行う。29日は器材の撤収作業を行い丸山遺跡の調査を終了する。

3 発掘 遺跡の層序(第76図)



第76図 丸山遺跡 土層図

基本的な層序は、第Ⅰ層黒色土(耕作土)10～20cm、第Ⅱ層黒褐色土で粘性があり赤色の粒子を含み軟らかい・10～30cm、第Ⅲ層褐色土で粘性がある微砂質で軟らかい・10～20cm、第Ⅳ層黄褐色粘土(地山)である。第Ⅴ層はA地点のみに認められ、B地区では北側に行くに従つて第Ⅱ層が厚く堆している。遺物包含層は第Ⅱ層である。

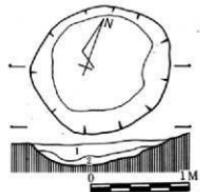
遺構・遺物の分布

遺構は、F・G-41・42グリッドで1号土壤、B・C-14・15グリッドで2号土壤が検出したのみで、住居跡その他の遺構は認められなかつた。遺物の分布は、H～J-41～45グリッドに比較的多く出土し、G-38・F・H-39・D-41グリッドで数片土器片が検出されたが、他ではまったく認められなかつた。

4 遺構と遺物

遺構 土壙2基を検出する。

1号土壤(第77図・図版61)平面形は不整の円形を呈し、大きさは1.4×1.3m・深さ20cmを測り、第Ⅳ層を掘り込んで断面がスリバチ状を示している。覆土は2層に分けられ、黒褐色・褐色土になり、いずれも炭化粒子と黄褐色粘土粒子を含み、土質は上層でやや堅く下層で軟らかである。出土遺物はない。

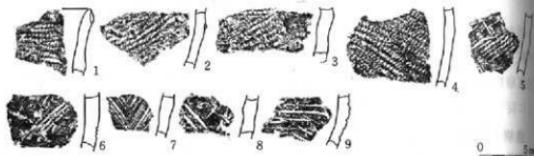


第77図 丸山遺跡 1号土壤

2号土壤(図版61) 平面形は不整椭円形を呈し、長径1.7m・短径90cm・深さ40cmを測り、長軸方向はN-50°-Eを示す。壁はほぼ垂直に第IV層を掘り込むが、壁面は一定にならず、非常に凹凸がある。覆土は、中央に黄褐色粘土層がレンズ状に堆積し、下部で黄褐色土になっている。平面で確認した時点では黄褐色土がドーナツ状になつていて。

遺物 (第78図・図版62)

遺物の総数は、土器・石器を合せて整理箱1箱である。土器は完形・一括土器は出土せず、大部が小破片もしくは細片である。石器は、石斧状石器3・砥石2点でその他は貝類フレイクである。1~9はいずれも土器片である。



第78図 丸山遺跡 出土遺物

(1)は口縁部破片で、色調は黒褐色を呈し、胎土は砂粒・石英粒・繊維を含み、焼成は良好で器壁裏側を調成している。口唇直下で指頭痕が認められ、RLの織文原体が横走する。(2~4)は胴部で、(4)は胴下半部である。(2・3)はRL・(4)はLRの織文原体が斜状になり、(3)では不規則である。いずれも色調は黒褐色で、胎土に繊維を含み器壁がザラザラしている。

(5~9)は棒状工具先端による沈線文である。いずれも胴部破片で、色調は(8・9)が黒褐色となり、やや焼成が良く、(5~7)は黒褐色を呈する。胎土は石英粒を多含み、繊維も含まれる。(5)は地文が無筋織文で、(8)は单筋織文を地文とする。(5~8)は綾杉状に描き、(9)は横位に引き、さらに斜継位方向に描き出している。

石斧状石器 いずれも片面加工で刃部にかけて、両側の縁が直線的に開き、断面が楔状となる。石器の中央部が一番厚く高くなる。材質は硅質頁岩・頁岩である。

5 まとめ

庄内スーパー農道は、本遺跡の北端を通るため、遺物の分布状況から中心部は残り、中心部分は丘陵台地上の南東部に位置すると考えられる。遺構・遺物の検出状態がわざかたため、その性格は不明であり、2基の土壤も詳細な時期決定ができなかつた。遺物について、土器片1は縄文時代早期であり、2~9は縄文時代前期大木6式に比定される。石斧状石器については縄文時代前期の特徴を示すものである。今回の調査は、部分的区域なため性格・内容を明らかにすることは出来ないが、本遺跡は縄文時代早期末および前期後葉の所産の遺跡である。

第四章 総 括

以上庄内広域農業農道整備事業にかかる2遺跡の発掘調査結果について述べてきた。

三穂林E遺跡からは、縄文時代中期前半と後・晚期の二時期にわたる集落跡の一部が明かされた。庄内地方における当該期の集落跡の調査は、豊穴 住居跡 の検出も含めまだ段階についた段階であり、三穂林E遺跡の調査内容は限られた面積とはいえ、大きな足がかりを作ったと言える。

丸山遺跡は、庄内スーパー農道が遺跡の北端を通るため、検出された遺構は土壙2基のみである。出土遺物から、縄文時代早期末と同前期後葉の二時期にわたる遺跡であることが判明した。さいわい遺跡の中心部分は残されており、今後の計画的な保存が望まれる。

庄内平野の東、出羽丘陵には平田町新山遺跡（註一）、遊佐町金俣遺跡（註二）、同神代遺跡（註三）等、三穂林E遺跡や丸山遺跡と密接な時期的関連をもつ遺跡が立地しており、これら相互の関連性は今後の重要な課題である。

また庄内広域農業農道整備事業にかかる遺跡は、昭和50年度に羽黒町村中遺跡を発掘調査しており、今後もその調査が増えることが予想される。埋蔵文化財を開発からどう保存していくかは、大きく自然保護とも関連する重要な課題であり、関係諸機関の慎重な配慮を期待するところである。

一付 編一

註一　酒田市立酒田中央高等学校社会研究部 平田町新山遺跡 沢大17号 昭和42年

註二　酒田市立酒田中央高等学校社会研究部 遺跡の分布と性格（2） 庄内地方における考古学的研究

報 昭和43年

註三　佐藤信宏・佐藤慎雄「神矢田遺跡」遊佐町教育委員会 昭和47年

1 はじめに

現在、山形県内における埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は約2000カ所に及ぶとみられる。昭和37年の県下遺跡分布調査による1507カ所に、その後発見されたものを加えた数である。現在実施中の3カ年に及ぶ県下遺跡分布調査の結果がまとまれば、さらに増加することも予想される。

ところで近年の本県は、開発事業が活発である。そのためそれに伴うところの土地に係る土木工事による遺跡破壊が増加している。このような事態に対して県教育委員会では、文化課を設置し、埋蔵文化財の保護強化をすめている。文化課では、分布調査を進めると共に開発事業関係機関との協議を行ない、遺跡の保存および記録保存のための発掘調査を実施してきた。

埋蔵文化財包蔵地に土木工事等を実施すれば発掘することになる。文化財保護法ではこのような場合には届出をすることに定めている。また学術調査による発掘についても届出を定めている。この場合は、前者の場合と性格が異なるので区分される。土木工事等による発掘は、目的が埋蔵文化財とは関係なく、埋蔵文化財が破壊されてしまう。学術調査による発掘は、目的が埋蔵文化財の歴史的価値を明らかにするものである。この発掘届および発掘調査届は年々増加の傾向にある。その理由は、土木工事等の増加と遺跡保存ができない場合の記録保存措置による発掘調査の増加である。

このような状況の中で、本県の農林事業と埋蔵文化財とはどのような関係にあるだろうか。最近5カ年の埋蔵文化財発掘届および発掘調査届より探つてみたいと考える。

2 土木工事等による埋蔵文化財発掘にしめる農林事業の割合

農林業は土地にもとづく産業であるため埋蔵文化財との関わりは多い。ここでとりあげるのは表土の耕作等を除いた土木工事等によるものである。

第5表は、最近5カ年の土木工事等による発掘届一覧である。これをみると昭和46年度以後の5カ年における届出総数は35件である。その内訳をみると、農林事業関係24件、道路工事等の一般土木事業関係5件、工業団地造成事業等の関係3件、その他の事業関係3件である。農林事業は全体の7割を占め、いかに埋蔵文化財に影響を与えているかがわかる。第79図は第5表をもとにした年次別推移の棒グラフである。これによると、昭和48年度まで3年間の土木工事等による発掘は、全て農林事業によるものである。昭和49年度は、

18件中11件である。昭和50年度になつて占める比率は、よりダウンしている。この原因は、道路改良工事や工業団地造成が活発になつてきたこと、財政不況による農林事業のベースダウン等が考えられる。

このように農林事業による発掘の比率が高い原因は二つある。一つは、本県が農業県であり、国・県・市町村が一体となつて農林業の近代化をおし進めていることである。他の一つは、農林事業の性格によるものである。第5表によつて農林事業の内訳をみると、24件中15件が圃場整備事業、5件が水利事業、4件がスーパー農道造成事業である。圃場整備事業は、後二者の純粋なものに對し面的なものである。昭和46年頃より県内各地の平野部において実施されており、規模も何千ヘクタール台で相当大きい。したがつて平野部の埋蔵文化財埋蔵地の大多数が事業区域内に包括される。しかも圃場整備事業の多くが10~15年位かかるものである。そのため毎年発掘届が出されることになる。面積的には全国でもトップクラスの工業団地・住宅団地造成事業にも匹敵する大規模な事業なのである。

3 埋蔵文化財発掘調査届に占める農林事業の割合

埋蔵文化財発掘調査には、純粋な学術的動機にもとづく学術調査と記録保存のための行政的動機にもとづく行政調査がある。

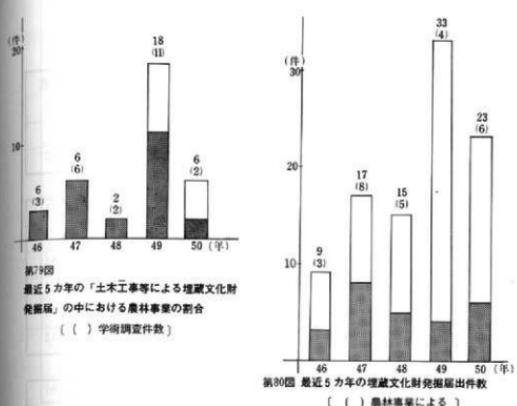
第6表は、最近5カ年の埋蔵文化財発掘調査届の一覧である。それによると昭和46年度より5年間の届出総件数は101件に及ぶ。そのうち学術調査は26件で約26%を占めている。年度毎の推移は第80回の通りである。殆んど大きな変化はみられない。実施主体は、教育委員会・博物館・大学・高等学校等である。

次に記録保存による行政調査をみてみると、101件中75件で約74%を占めている。内訳をみると、農林事業関係が33件、工業団地造成事業関係が26件、その他一般土木事業関係である。農林事業関係は、75件の44%を占めている。年次的な行政調査の推移は第80回の通りである。昭和49年度・50年度は比率が高まつてゐる。それは農林事業関係が多いけれども他の事業関係が多くなつてきているからである。いずれにしろ農林事業が埋蔵文化財の発掘調査において大きな影響を与えてゐることは確実である。

4 まとめ

以上のように埋蔵文化財発掘届・発掘調査届からみて、農林事業が埋蔵文化財に与える影響が大きいことが明らかとなつた、農業県である本県の特色といえる。そのために教育委員会等がかかる問題も多い。例えば次のような問題がある。

①殆んど常態的に農林事業による土木工事等の発掘が行われ、そのため行われる保



調査が慢性化している。そのために教育委員会本来の業務へのしづ寄せが大きくなっている。とくに財政負担が大きい。農林事業の大多数が多額の国庫補助を得ているのに対し、埋蔵文化財保護事業はその反対で予算確保が難しい。

②農林事業は、本来の主体者が農民であるけれども、国・県・市町村が関与して行われるケースが多く、多岐にわたつてゐるので、遺跡の保存が難しい。

③農林事業は、耕作されている土地に対して行われることが殆んどであるため、農林事業実施の前年度以前に調査することが難しい。

さてこのように埋蔵文化財に対して農林事業は大きな影響を与えてゐるわけであるが、埋蔵文化財保護の前進のために、農林事業関係者側が原因者として埋蔵文化財保護に大幅な協力をすることが望まれる。山形県の歴史解明のための文化遺産は得難い限り損つてはならない。豊かな山形県づくりは、産業だけなく文化の面においても行わなければならぬ。

最近5カ年の土木工事等による埋蔵文化財発掘届一覧

昭和46年度

	発掘予定地	種別	時期	発掘の原因	工事施行者
1	東根市元東根本郷 条里制跡	平安集落跡	46.7.1 ~ 11.30	國場整備事業	山形県
2	東田川郡藤島町添川	平安集落跡	45.5. 47.11.30	國場整備事業	山形県
3	東根市元東根白金	平安集落跡	47.7.1 ~ 10.24	國場整備事業	山形県

昭和47年度

1	東田川郡藤島町平形	平安集落跡	47.7.20 ~ 12.20	國場整備事業	山形県
2	山形市二位田390	平安橋脚跡	48.7.1 ~ 48.12.10	國場整備事業	山形県
3	山形市長谷堂	平安集落跡	48.7.1 ~ 48.12.10	國場整備事業	山形県
4	山形市二位田330-1	平安集落跡	48.7.1 ~ 48.12.10	國場整備事業	山形県
5	山形市古橋字高橋	平安集落跡	48.7.1 ~ 48.12.10	國場整備事業	山形県
6	東田川郡立川町三ヶ沢	繩文集落跡	48.5. 11.30	國場整備事業	山形県

昭和48年度

1	東田川郡余目町返吉	平安集落跡	48.6.21 ~ 10.31	國場整備事業	山形県
2	北村山郡大石田町田 沢田前	繩文集落跡	49.4.1 ~ 12.1	國場整備事業	山形県

昭和49年度

1	山形市滑川字妙見寺 村柵	繩文集落跡	48.7.20 ~ 11.30	県庁舎建設	山形県
2	酒田市北次字鷹尾山	経塚	49.5.1 ~ 6.20	ゴルフ場	庄内東信グリ ーンビジネス
3	鮭海郡遊佐町小松字 長田	平安集落跡	49.9.10 ~ 50.3.25	國場整備事業	山形県
4	藤島町大半田土済	平安集落跡	49.6.1 ~ 11.30	國場整備事業	山形県
5	村山市富並 北村山郡大石田町田 沢久保	繩文集落跡	49.5.22 ~ 11.30	県道改修工事	山形県
6	東田川郡藤島町須走	平安集落跡	49.5.1 ~ 11.30	國場整備事業	山形県
7	東田川郡余目町余目 字上梵天塚	祭祀	48.8.1 ~ 49.10.31	道路改良	余目町

8	東村山郡山辺町根際 元木	繩文集落跡	49.5 ~ 52.3.31	道路改良	東北農政局
9	東田川郡柳引町黒川 三疊林	繩文集落跡	49.6.10 ~ 11.30	スーパー農道	山形県
10	東田川郡柳引町黒川 上堤	繩文集落跡	46.6.10 ~ 11.30	スーパー農道	山形県
11	山形市滑川妙見寺	繩文集落跡	49.8.25 ~ 9.3	電柱建設	山形電報電話 局
12	米沢市問根	繩文集落跡	49.5.1 ~ 11.30	農業水利事業	東北農政局
13	米沢市赤浦	繩文集落跡	49.7.1 ~ 50.3.30	農業水利事業	東北農政局
14	米沢市李山	繩文集落跡	49.9.1 ~ 11.30	農業水利事業	東北農政局
15	米沢市竜野	繩文集落跡	50.5.1 ~ 11.30	農業水利事業	東北農政局
16	米沢市遠山	繩文集落跡	50.5.1 ~ 11.30	農業水利事業	東北農政局
17	酒田市本楯明成寺	平安集落跡	49.10.20 ~ 12.20	送電線建設	東北電力株式 会社
18	余目町余目上梵天塚	祭祀	50.7.10 ~ 10.31	道路改良	余目町

昭和50年度

1	羽黒町町屋村中	平安集落跡	50.11.1 ~ 51.6.30	スーパー農道	山形県
2	上山市牧野	繩文集落跡	50.7.1 ~ 7.31	工場建設	高橋久吾
3	東根市東根大森 (小林A)	繩文集落跡	50.10.1 ~ 10.31	工業団地造成	山形県
4	東根市東根大森 (小林B)	繩文集落跡	50.10.1 ~ 10.31	工業団地造成	山形県
5	藤島町古都道橋	墳墓	51.4.1 ~ 10.31	河川改修	山形県
6	西川町沼山田代	繩文集落跡	50.10.1 ~ 12.31	國場整備事業	共同施行代表 荒木範次郎

最近5カ年の埋蔵文化財発掘調査結果一覧

(○印は学術調査)

昭和46年度

	発掘遺跡地	調査期日	発掘主体者	遺跡の種別
①	西置賜郡板鹿町上屋地	46.8.15～ 8.20	県立博物館	旧石器時代
2	東根市宮崎サギノ森	46.7.25～ 8.3	東根市教育委員会	平安集落跡
3	鮫海郡遊佐町北目字神矢田	46.8.5～ 8.11	遊佐町教育委員会	縄文集落跡
④	米沢市三沢字松原	46.8.15～ 8.21	置馬考古学会	縄文集落跡
5	東田川郡朝日村中野新田	46.10.10～ 11.10	朝日村教育委員会	縄文集落跡
6	長井市泉字鎌ノ越	46.10.16～ 10.23	柏倉亮吉他	縄文集落跡
7	東田川郡藤島町平形	46.10.25～ 11.3	藤島町教育委員会	平安集落跡
⑧	東田川郡朝日村越中山	46.11.1～ 11.5	致道博物館	旧石器時代
⑨	西村山郡朝日村沼ノ平	47.3.29～ 4.7	慶應大学	旧石器時代

昭和47年度

1	東田川郡朝日村中野新田	47.5.14～ 6.14	朝日村教育委員会	縄文集落跡
2	西置賜郡板鹿町萩生石箱道	47.5.3～ 6.7	板鹿町教育委員会	縄文集落跡
3	西置賜郡白鷹町高岡	47.5.27～ 5.28	白鷹町教育委員会	縄文集落跡
4	東根市長瀬字北方	47.6.6～ 6.19	東根市教育委員会	古墳時代集落跡
5	東根市元東根、白金	47.6.20～ 6.25	東根市教育委員会	条里遺跡
⑥	尾花沢市西原堀ノ内	47.7.25～ 8.2	尾花沢市教育委員会	平安集落跡
⑦	西置賜郡板豊町上屋地	47.8.7～ 8.17	県立博物館	旧石器時代
⑧	新庄市飛田下上野	47.8.4～ 8.7	尾花沢高校	縄文集落跡
⑨	西置賜郡小国町元原訪	47.8.24	小国高校	旧石器時代
⑩	米沢市竹井玉ノ井	47.8.25～ 8.30	佐藤鎮雄他	縄文集落跡
11	西置賜郡板豊町上屋地	47.8.7～ 8.11	県立博物館	縄文集落跡
12	東田川郡藤島町平形	47.11.13～ 11.22	藤島町教育委員会	平安集落跡
⑬	西置賜郡小国町岩井沢	41.11.27～ 11.29	小国高校	旧石器時代
14	西置賜郡板豊町數馬	47.10.30～ 11.2	県立博物館	縄文集落跡
⑯	東田川郡朝日村越中山	47.11.25～ 11.30	致道博物館	旧石器時代
⑰	西置賜郡小国町湯ノ花	48.4.3～ 4.5	小国高校	々

昭和48年度

1	東根市長瀬八反	48.6.8～ 6.10	東根市教育委員会	平安集落跡
---	---------	-----------------	----------	-------

②	北村山郡大石田町庚申町	48.7.14～ 7.17	山形大学歴史学研究会	縄文集落跡
③	最上郡最上町黒沢字木材	48.7.29～ 8.2	最上町教育委員会	縄文集落跡
4	鶴岡市岡山字六供	48.8.1～ 8.31	鶴岡市教育委員会	縄文集落跡
5	東田川郡立川町符川字古柳	48.7.9～ 8.3	山形県教育委員会	平安集落跡
6	山形市古柳大曾根	48.8.10～ 8.30	山形県教育委員会	平安集落跡
7	西置賜郡板豊町数馬大字下上台	48.8.5～ 8.15	県立博物館	縄文集落跡
⑧	西置賜郡板豊町上屋地	48.8.3～ 8.12	県立博物館	旧石器時代
9	東置賜郡高畠町済水前	48.8.20～ 8.30	山形県教育委員会	古墳
10	尾花沢市鶴子字原ノ内	48.8.25～ 8.28	県立博物館	縄文集落跡
⑪	北村山郡大石田町黒澤沢	48.10.28～ 11.18	鶴岡高校	縄文集落跡
12	東田川郡藤島町平形	48.10.28～ 11.10	山形県教育委員会	平安集落跡
13	山形市二位田、長谷堂	48.9.17～ 11.10	山形県教育委員会	平安集落跡
14	東田川郡余目町大字返吉	48.10.1～ 10.13	山形県教育委員会	平安集落跡
⑯	東田川郡朝日村越中山	48.11.6～ 12.5	朝日村教育委員会	旧石器時代

昭和49年度

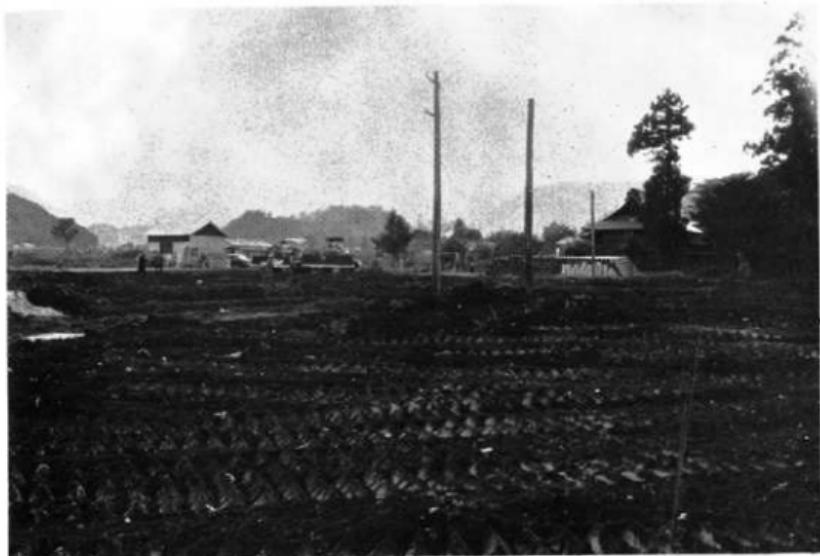
1	東田川郡余目町梵天塚	49.5.3～ 5.31	余目町教育委員会	祭祀跡？
2	鶴ヶ島八幡町市条	49.9.7～ 11.9	山形県教育委員会	平安～縄文集落跡
3	鶴岡市岡山字六供	49.5.10～ 50.3.31	山形県教育委員会	縄文集落跡
4	酒田市鷹尾山1-6	49.5.20～ 5.31	酒田市教育委員会	縄塚
5	東田川郡藤島町大平田土清	49.9.30～ 10.19	山形県教育委員会	平安集落跡
6	東田川郡藤島町大平田土清 (助川通跡)	49.9.30～ 10.19	山形県教育委員会	平安集落跡
7	北村山郡大石田町田沢久保	49.5.14～ 7.20	山形県教育委員会	縄文集落跡
8	村山市富並字大沢	49.5.14～ 7.20	山形県教育委員会	縄文散布地
9	東田川郡櫛引町黒川上堤	49.5.14～ 6.8	山形県教育委員会	縄文集落跡
10	東田川郡櫛引町須毛岸野	49.8.10～ 9.1	山形県教育委員会	平安集落跡
11	東田川郡櫛引町黒川三穂林	49.5.14～ 6.8	山形県教育委員会	縄文集落跡
12	村山市富並古道・中山	49.5.14～ 7.20	山形県教育委員会	縄文集落跡
13	村山市富並字宮ノ前	49.6.24～ 7.20	山形県教育委員会	縄文集落跡
14	東田川郡三川町横川大下	49.7.23～ 8.11	山形県教育委員会	平安～縄文集落跡
15	山形市滑川字妙見寺村	49.6.10～ 6.15	山形県教育委員会	縄文集落跡
16	西村山郡朝日町常盤畠舗	49.6.29～ 7.2	山形県教育委員会	縄文集落跡
⑯	東置賜郡高畠町大立山	49.7.8～ 7.17	県立博物館	洞穴

18	米沢市笛野	49.7.30~ 11.30	米沢市教育委員会	縄文集落跡
19	米沢市万世町清水北No.19	49.7.30~ 11.30	米沢市教育委員会	縄文集落跡
20	米沢市万世町清水北No.18	49.7.30~ 11.30	米沢市教育委員会	縄文劣生集落跡
21	米沢市万世町 (No.23遺跡)	49.7.30~ 11.30	米沢市教育委員会	縄文集落跡
22	米沢市万世町 (No.35遺跡)	49.7.30~ 11.30	米沢市教育委員会	平安集落跡
23	米沢市万世町辻ノ堂 (No.36遺跡)	49.7.30~ 11.30	米沢市教育委員会	縄文集落跡
24	米沢市万世町辻ノ堂 (No.37遺跡)	49.7.30~ 11.30	米沢市教育委員会	平安集落跡
25	米沢市万世町細原 (No.38遺跡)	49.7.30~ 11.30	米沢市教育委員会	鍾乳集落跡 (?)
26	米沢市万世町 (No.39遺跡)	49.7.30~ 11.30	米沢市教育委員会	古墳
27	山形市清川字妙見寺	49.7.30~ 8.25	山形市教育委員会	縄文集落跡
28	東根市東根小林A・C	49.7.23~ 9.10	東根市教育委員会	縄文平安集落跡
29	東田川郡朝日村越中山	49.10.27~ 11.26	朝日村教育委員会	旧石器時代
30	新庄市角沢字南野	49.11.2~ 11.24	新庄市教育委員会	旧石器時代
31	酒田市本楯 (明成寺)	49.11.5~ 12.10	酒田市教育委員会	平安集落跡
32	余目町余目上梵天塚	49.11.20~ 12.19	余目町教育委員会	祭祀 (?)
33	酒田市生石字石沢	49.12.20~ 50.1.20	酒田中央高校	平安古窯跡

昭和50年度

1	山形市清川字妙見寺村瀬	50.4.14~ 6.30	山形県教育委員会	縄文集落跡
2	高麗郡八幡町法蓮寺字堂ノ前	50.4.14~ 11.30	山形県教育委員会	平安~ 縄文集落跡
3	東根市沼沢字向原	50.7.5~ 7.6	東根市教育委員会	縄文集落跡
4	米沢市万世町牛森清水北	50.5.1~ 10.31	米沢市教育委員会	縄文集落跡
5	米沢市万世町牛森	50.5.1~ 10.31	米沢市教育委員会	縄文集落跡
6	米沢市万世町牛森焼山北	50.5.1~ 10.31	米沢市教育委員会	縄文集落跡
7	米沢市万世町牛森八幡原	50.5.1~ 10.31	米沢市教育委員会	縄文集落跡
8	米沢市竹井玉ノ木1~15	50.5.1~ 10.31	米沢市教育委員会	縄文集落跡
9	米沢市竹井玉ノ木2585~13	50.5.1~ 10.31	米沢市教育委員会	縄文集落跡
10	米沢市万世町牛森郷原前川原	50.5.1~ 10.31	米沢市教育委員会	縄文集落跡
11	東根市東根大森 (小林A)	50.6.30~ 9.30	山形県教育委員会	縄文集落跡
12	東根市東根大森 (小林B)	50.6.30~ 9.30	山形県教育委員会	縄文集落跡
13	上山市牧野	50.7.27~ 8.10	上山市教育委員会	縄文集落跡
14	東置賜郡高畠町大立山	50.7.30~ 8.23	県立博物館	洞穴
15	新庄市角沢南野	50.7.28~ 8.	新庄市教育委員会	旧石器時代

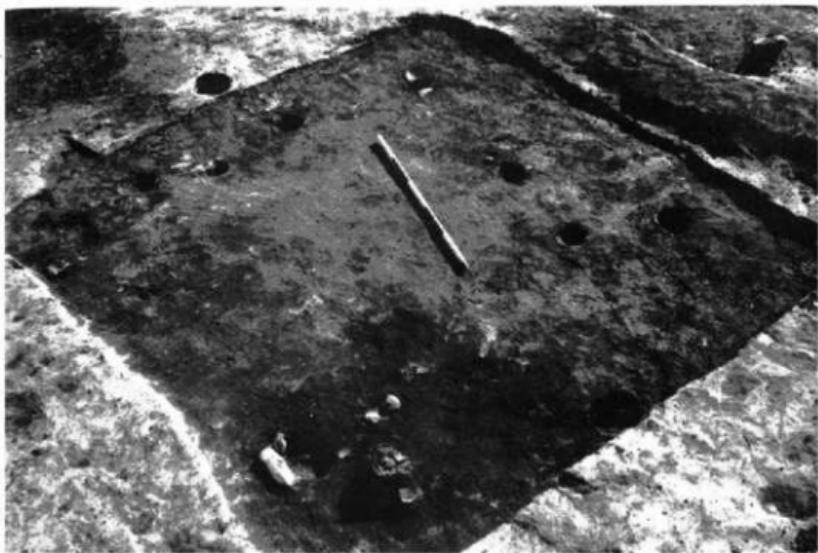
16	酒田市生石字頬瀬山	50.8.15~ 8.31	酒田市教育委員会	平安古窯跡
⑰	酒田市本郷城輪	50.9.1~ 51.3.20	酒田市教育委員会	平安国府跡 (?)
18	藤島町古郡道橋	50.10.20~ 11.30	山形県教育委員会	埴塗
19	羽黒町山田代	50.6.9~ 6.30	山形県教育委員会	平安集落跡
20	西川町沼山田代	50.8.6~ 9.30	山形県教育委員会	縄文集落跡
㉑	酒田市生石字笛山	50.11.1~ 11.30	致道博物館	平安古窯跡
22	東田川郡朝日村越中山中入	50.11.1~ 11.20	朝日村教育委員会	旧石器時代
23	天童市高塚上遠矢塚	50.11.22~ 11.25	川崎利夫 治	古墳



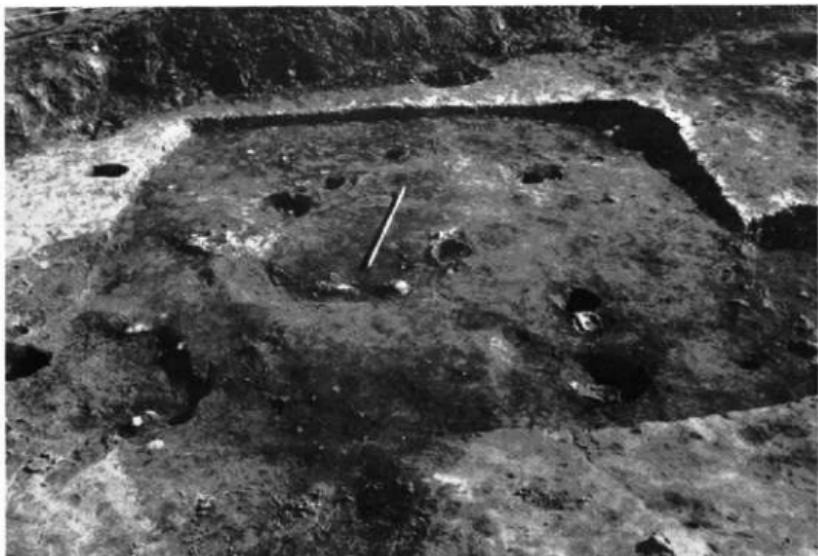
二位田遺跡近景



二位田遺跡住居跡群



二位田遺跡1号住居跡



二位田遺跡2号住居跡



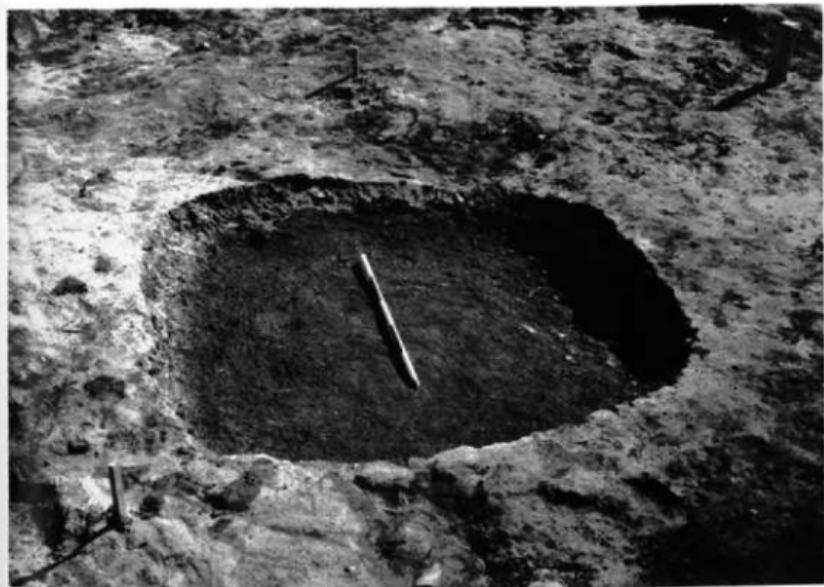
二位田遺跡3号住居跡



二位田遺跡1～3号住居跡



二位田遺跡土器出土狀況



二位田遺跡 4 号住居跡



二位田遺跡土器出土狀況



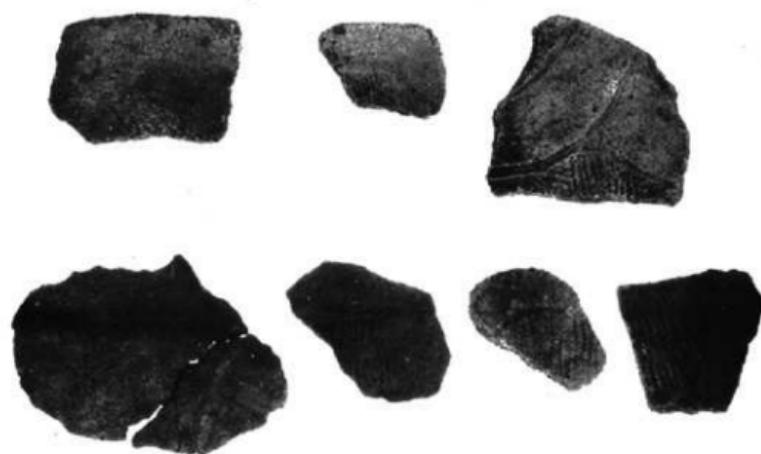
土器出土狀況



二位田遺跡5・6号住居跡



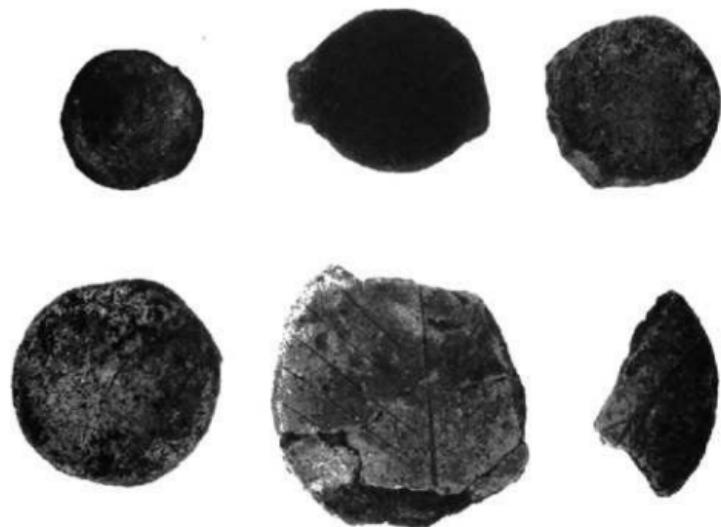
二位田遺跡出土土器（a・b類1）



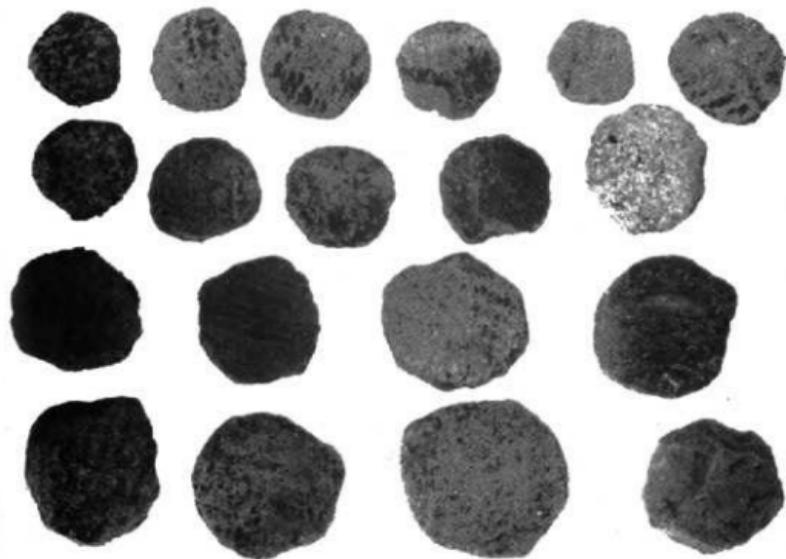
二位田遺跡出土土器（b類2）



出土土器（c～e類）



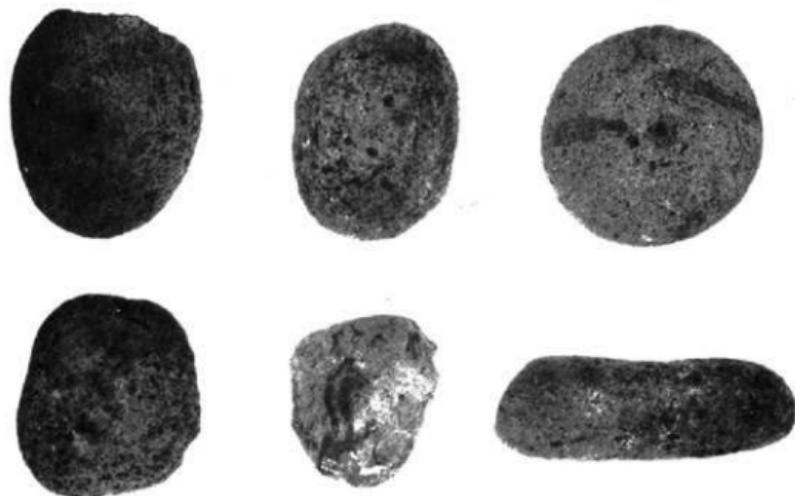
二位田遺跡出土土器（底部）



二位田遺跡出土円盤状土製器・石製品



二位由遺跡出土石器（石鏃・石劍）



出土石器（凹石）



二位田遺跡出土石器（石棒・凹石・砥石）



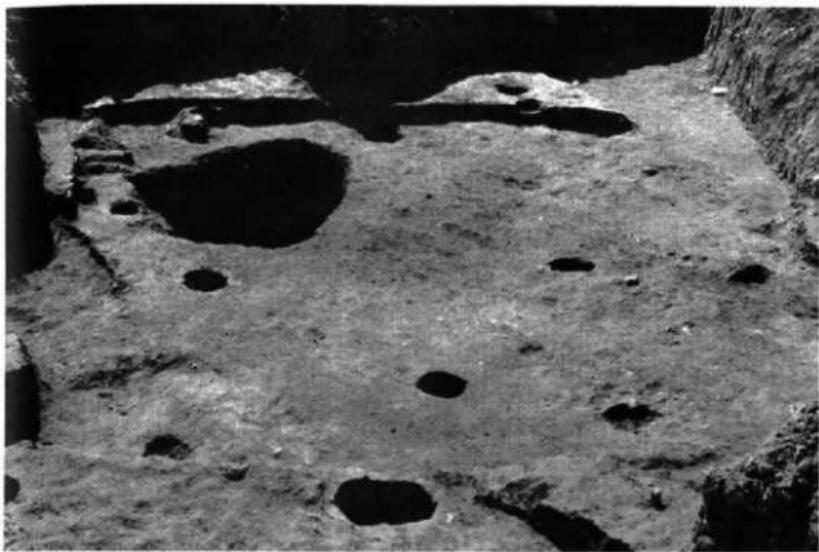
二位田遺跡出土土器（須恵器）



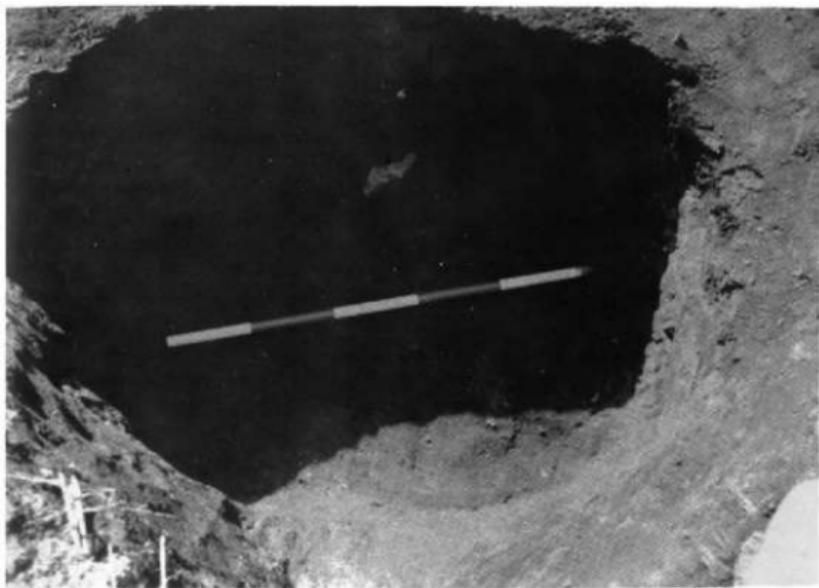
本沢川Ⅱ遺跡近景



本沢川Ⅱ遺跡発掘風景



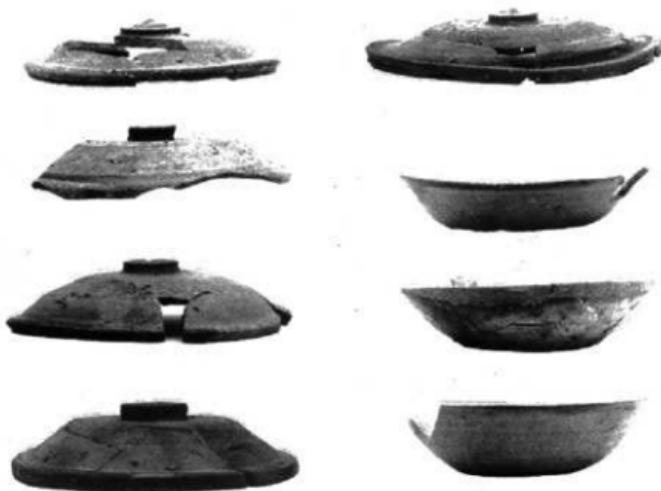
本沢川Ⅱ遺跡1・2号住居跡



1号土塁



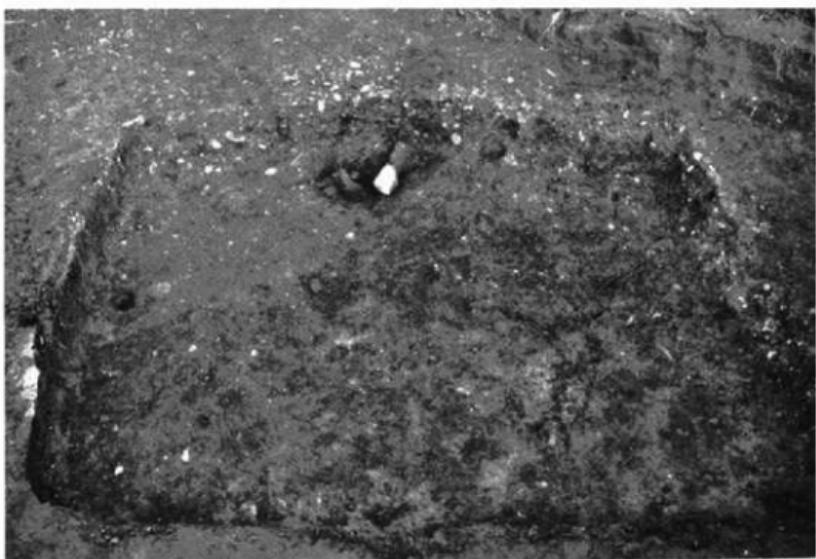
本沢川Ⅱ遺跡土器出土状況



本沢川Ⅱ遺跡出土土器（須恵器）



寺裏遺跡近景



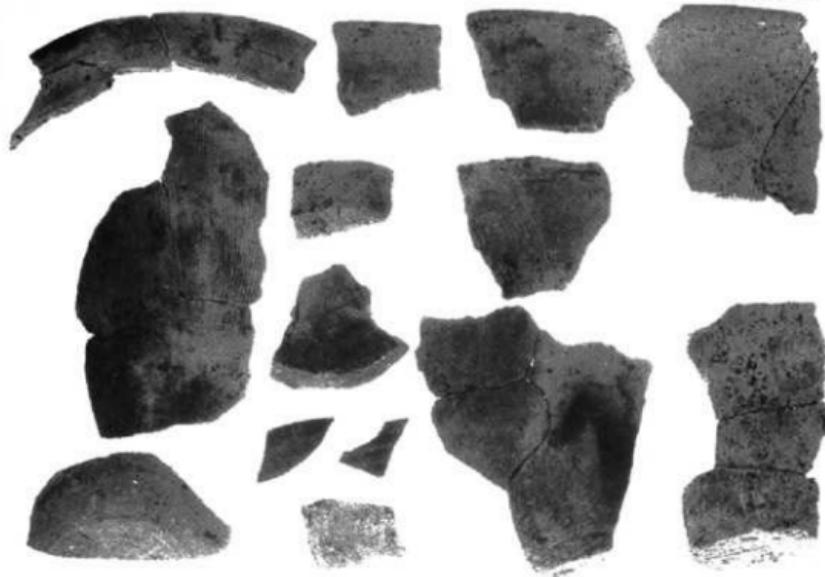
1号住居跡



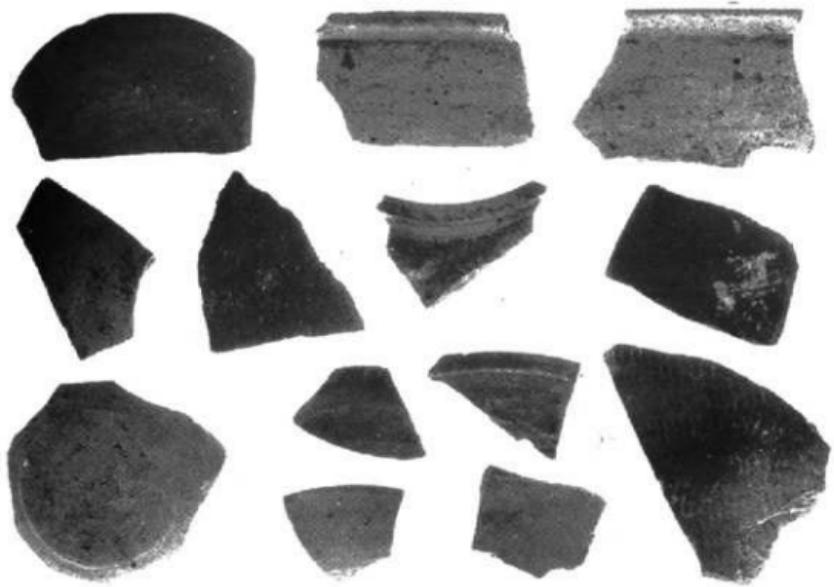
寺裏遺跡 I—B 6 区 遺物出土状況



出土土師器・石斧



寺裏遺跡出土土師器



寺裏遺跡出土須惠器



大曾根条里遺構下反田東地区遺跡近景



下反田東地区第1トレンチ



下反田東地区第2トレンチ



下反田東地区第3トレンチ



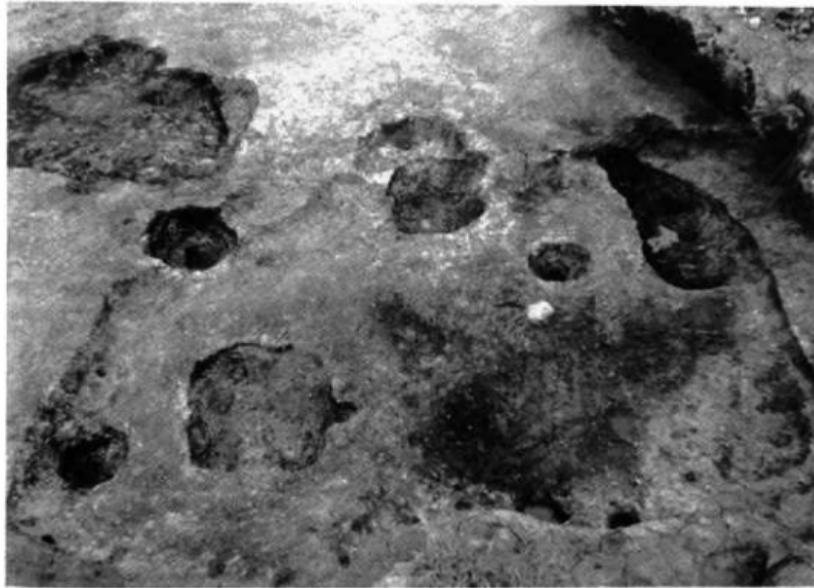
下反田西地区遺跡近景



下反田西地区1号土塚



下反田西地区 1 号住居跡



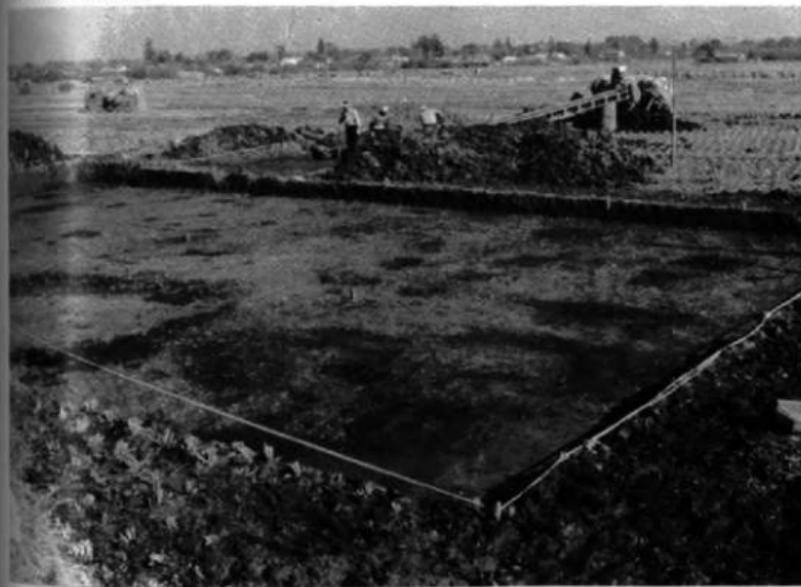
下反田西地区 1 号住居跡



下反田西地区出土须惠器



高橋地区遠景



高橋地区発掘風景



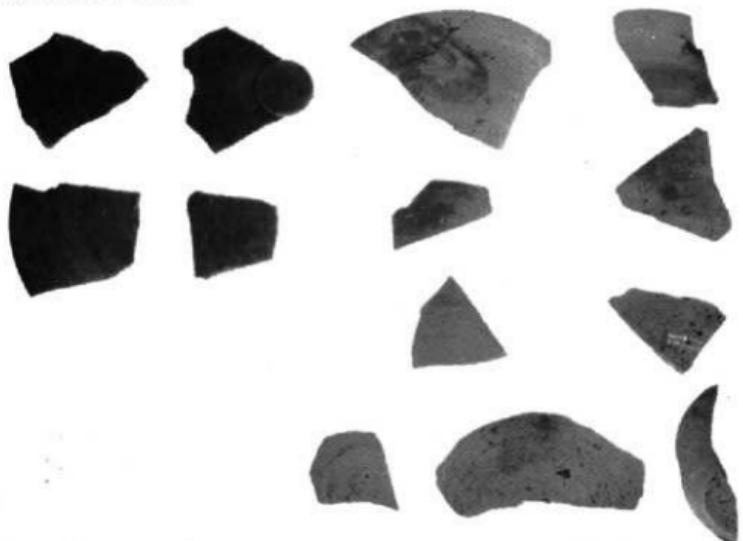
高橋地区第1・2号建物跡



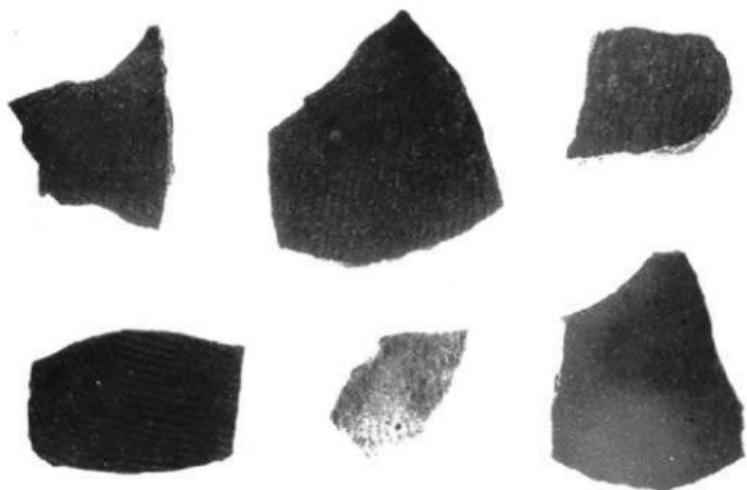
高橋地区遺物出土状況



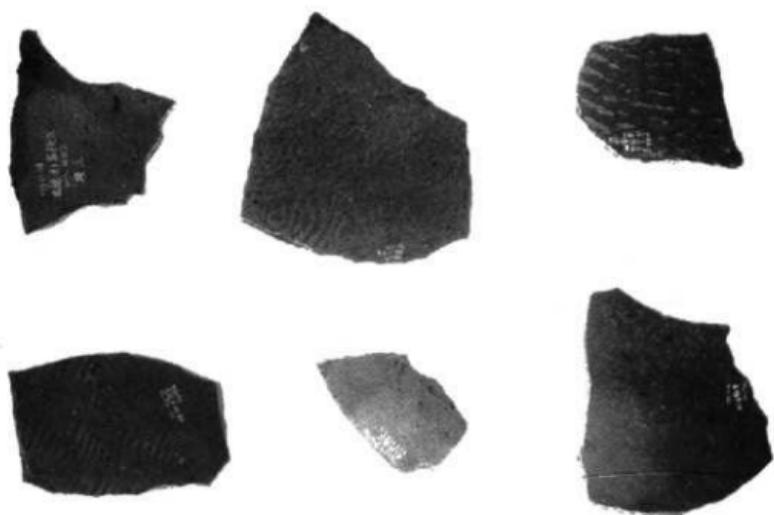
高桥地区出土土器



高桥地区出土土器



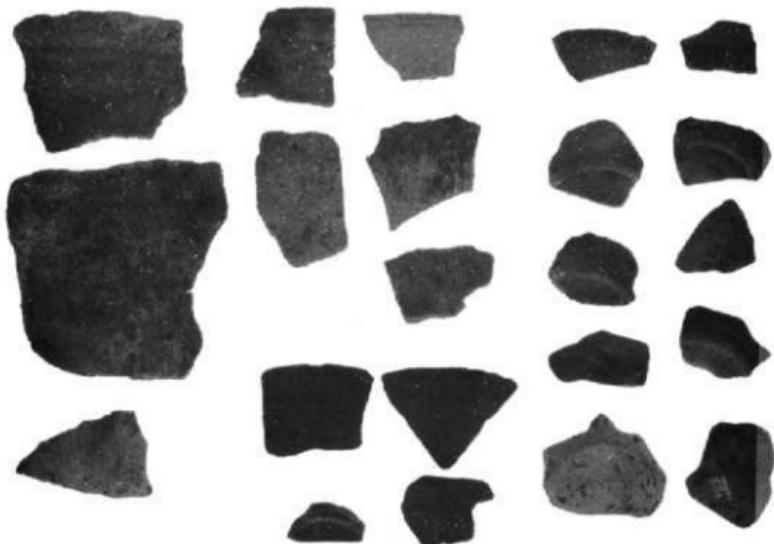
高檔地區出土土器（裏面）



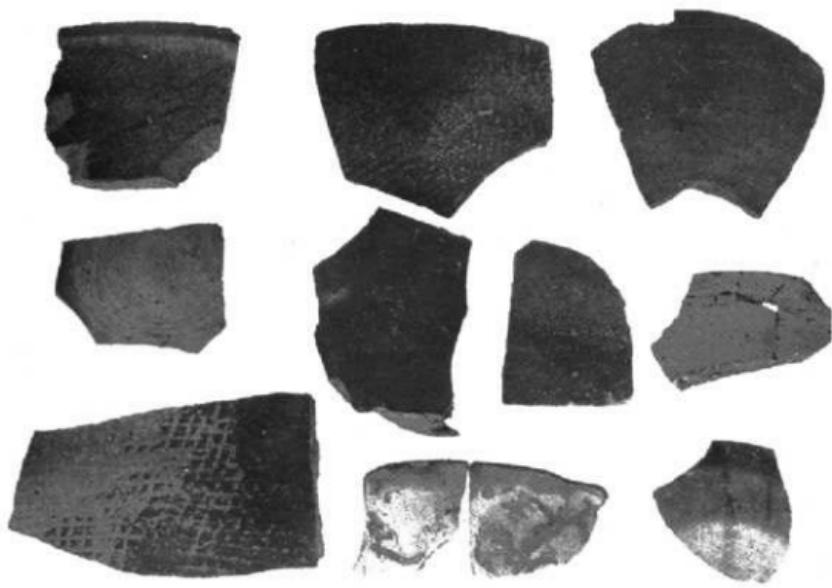
出土土器（裏面）



高榜地区出土土器·石器



高程地区出土土器



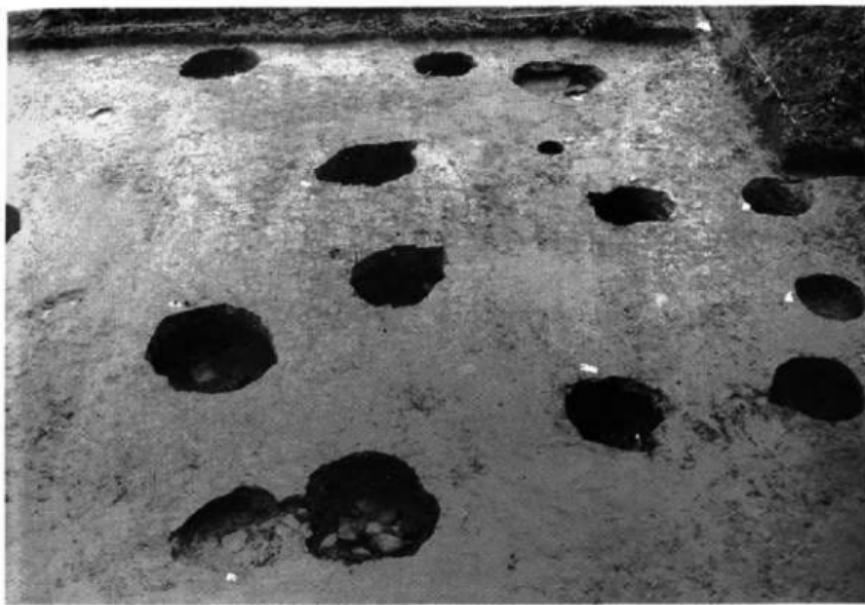
下反田西地区出土土器



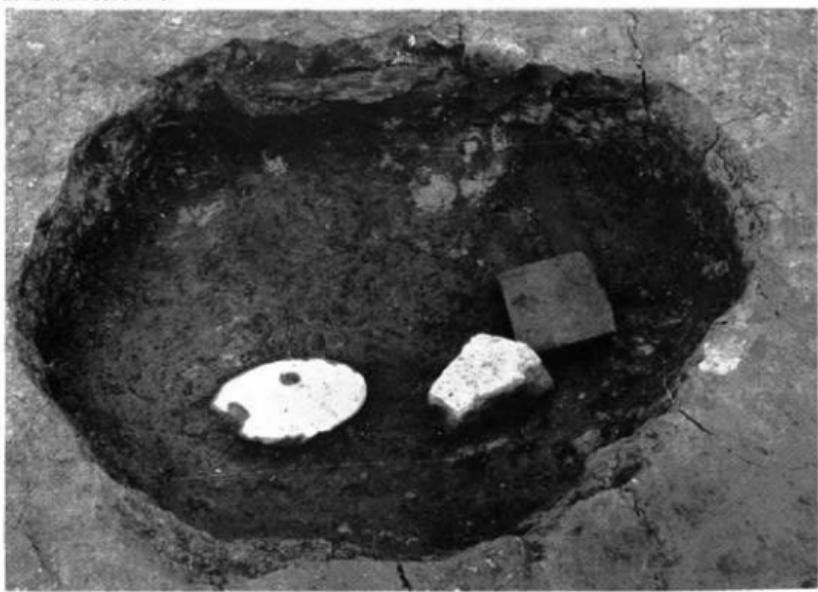
古橋遺跡近景



古橋遺跡ピット群



古樹遺跡土坡群全景



古樹遺跡7號土坡



古植遺跡 1 号土塘



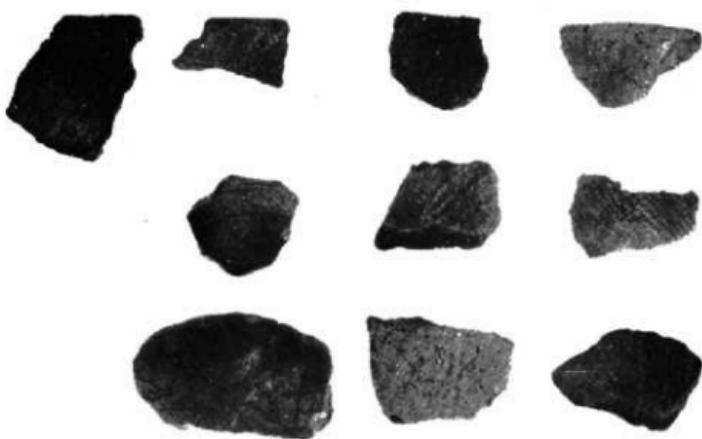
古植遺跡 5 号土塘



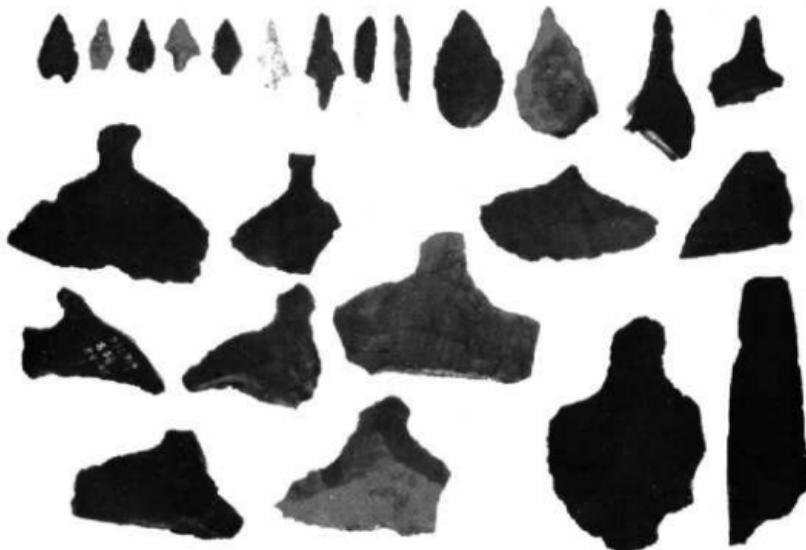
古桥遗迹3号沟状遗模



古桥遗迹竹梯出土状况



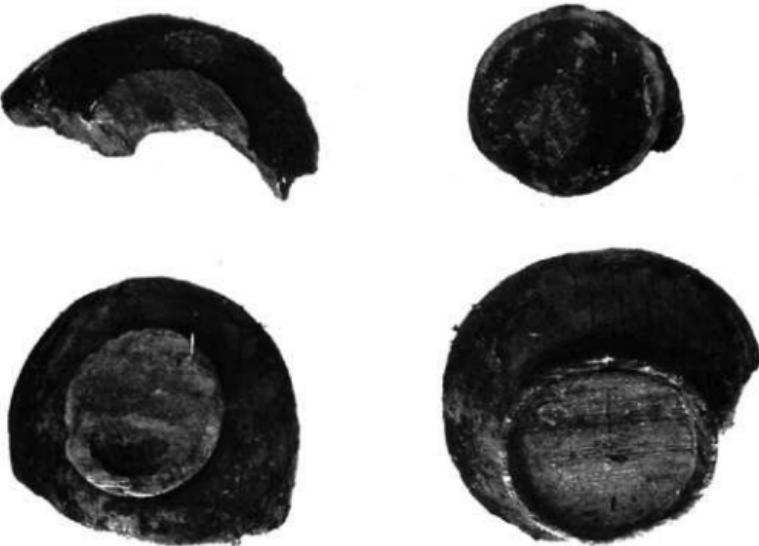
古橋遺跡出土土器



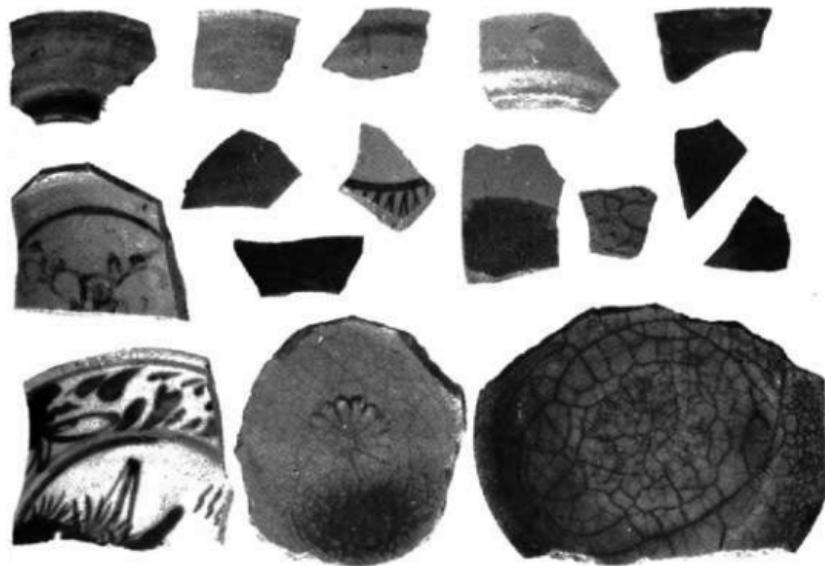
古橋遺跡出土石器



古橋遺跡出土土器



出土木碗



古橋遺跡出土陶器



出土陶器



返吉遺跡発掘状況



返吉遺跡 1 号柱穴群



返吉遺跡2号柱穴群



返吉遺跡出土土器



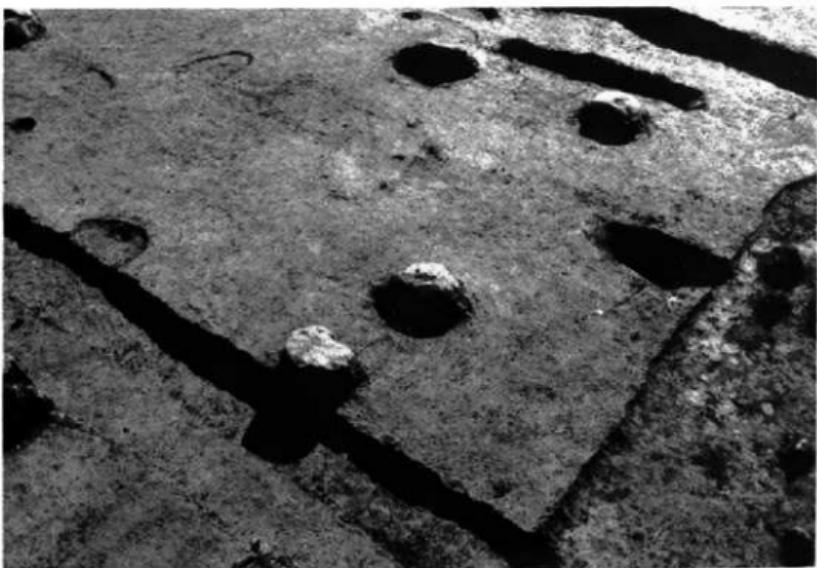
平形遺跡近影



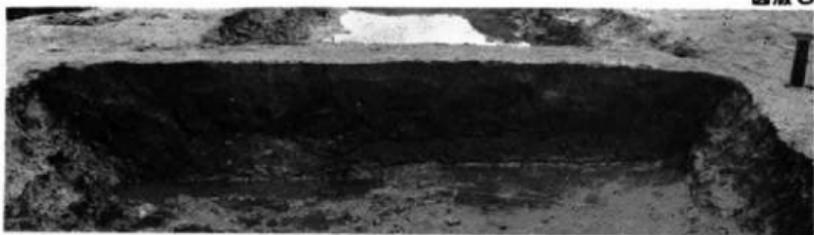
平形遺跡発掘区中央部（東より）



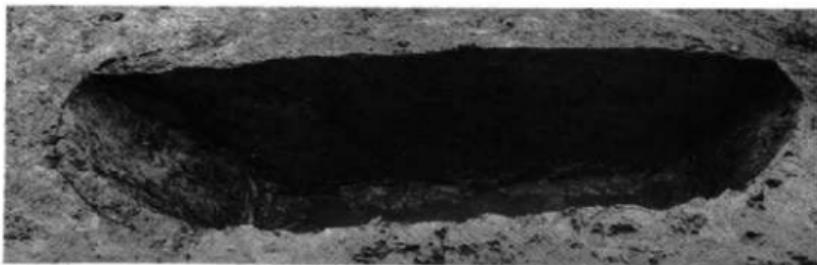
平形遺跡発掘区中央部（北より）



平形遺跡発掘区中央部近景



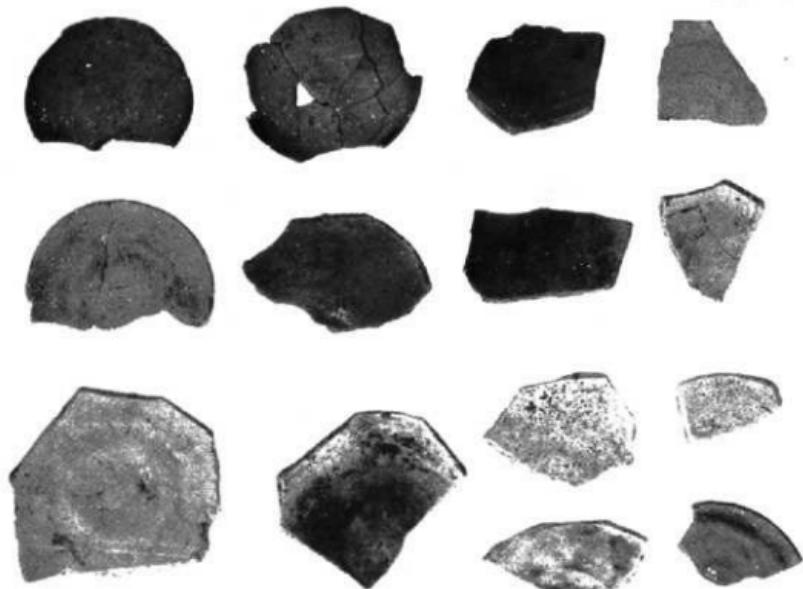
平形遺跡4号溝状遺構土層断面



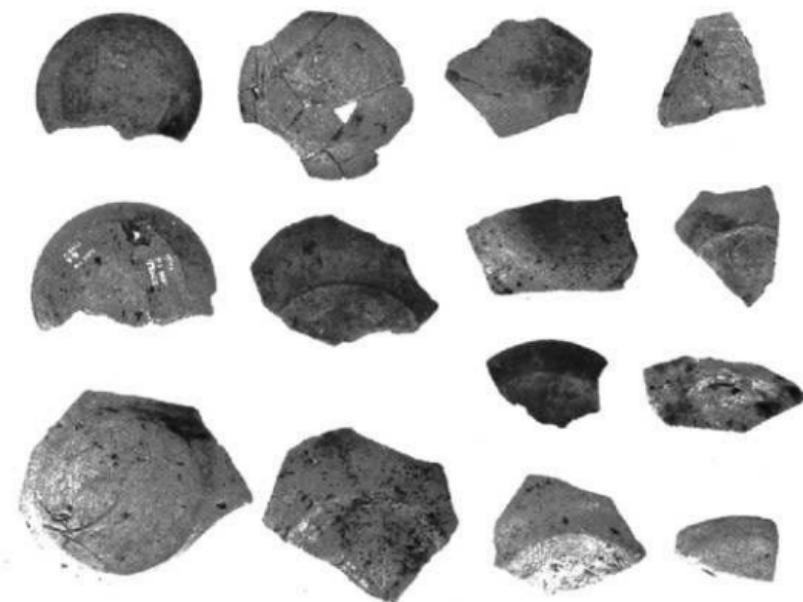
ピット10土層断面



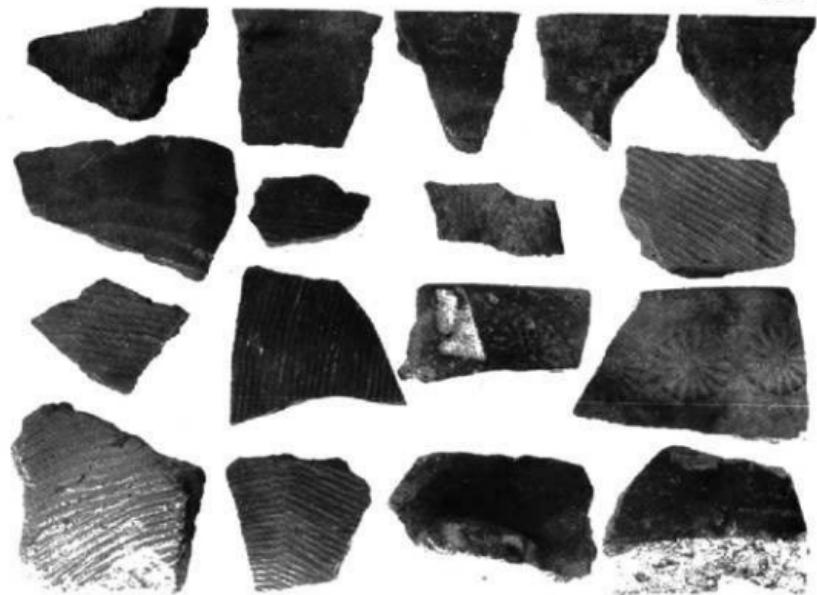
遺物出土状況



平形遺跡出土須惠系土器（内面）



出土須惠系土器（外面）



平形遺跡出土須惠器・陶質土器



平形遺跡出土陶磁器



平形遺跡出土鉄器



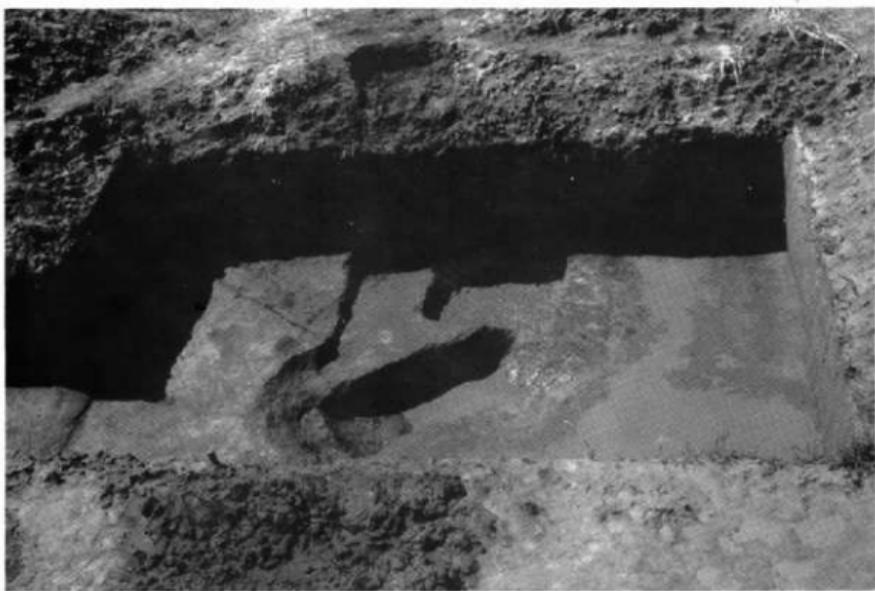
横川 B・D 遺跡遠景



横川 B 遺跡発掘風景



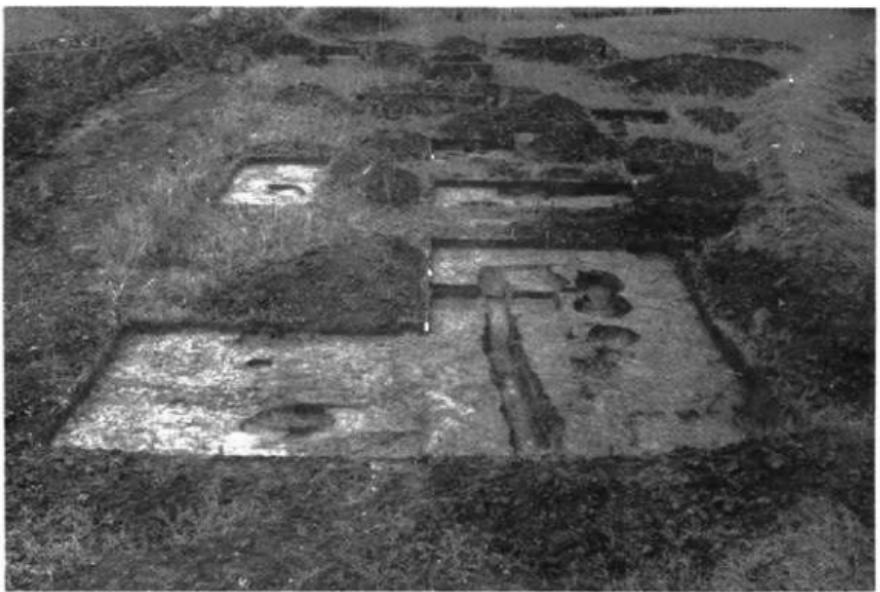
横川 B 遺跡溝跡（部分）



横川 B 遺跡土壤



須走遺跡全景



堯振狀況



須走遺跡発掘風景



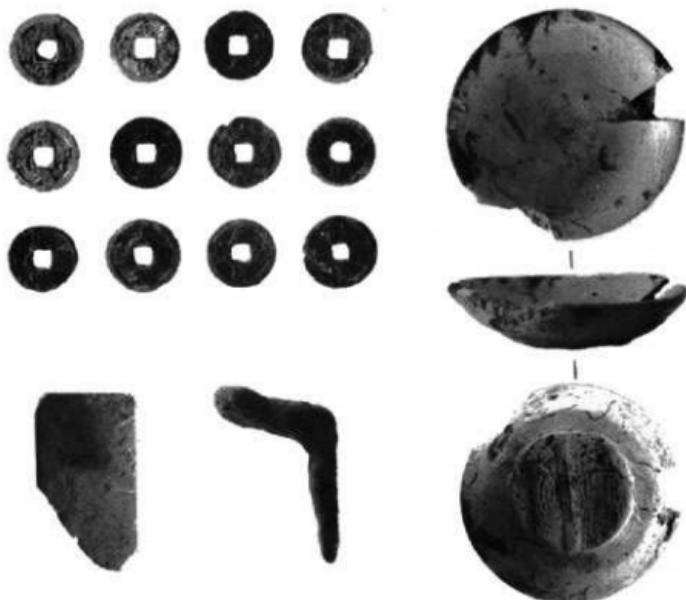
G H-17区(南西より)



K L-15区(南西より)



須走遺跡出土遺物



横川 B 遺跡出土遺物



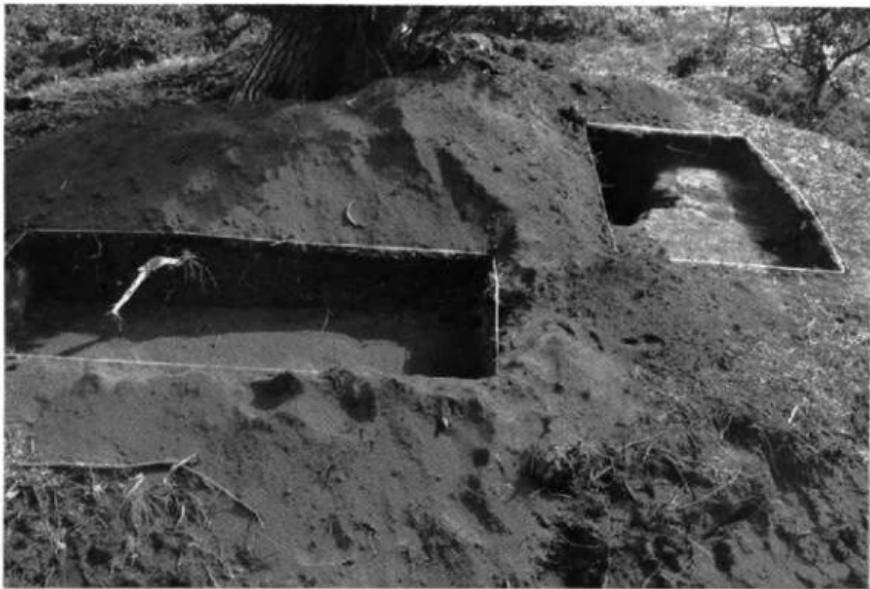
土済遺跡近景（西方より）



土済遺跡調査区



土済遺跡層序



福坂調査区



助川遺跡調査区（南方より）



助川遺跡調査区（南方より）



助川遺跡層序



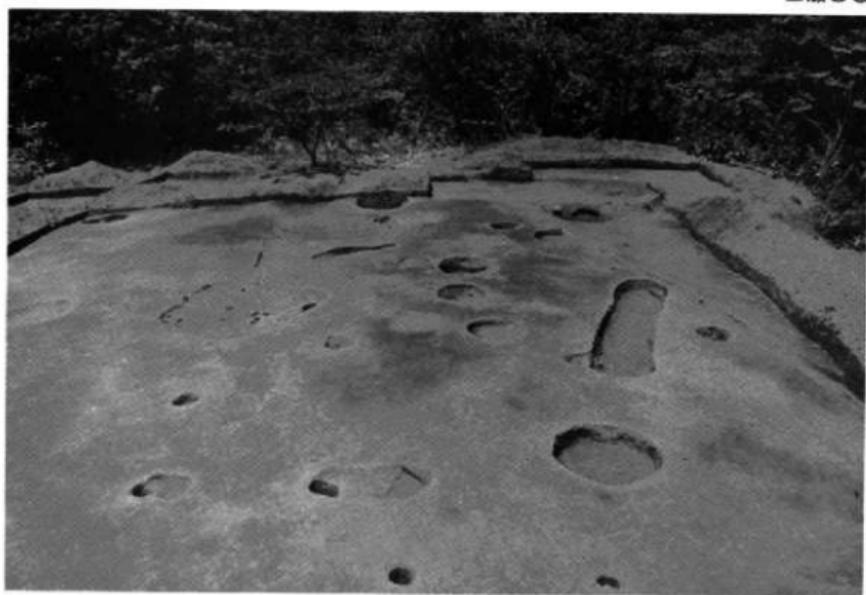
助川遺跡層序



三種林 E 遺跡遠景



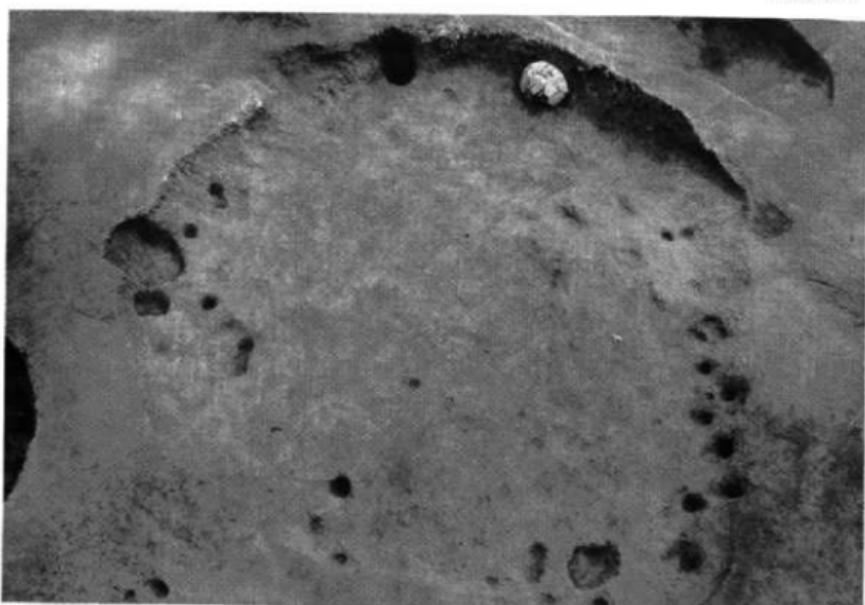
三種林 E 遺跡発掘風景



三磯林 E 遺跡近景（南方より）



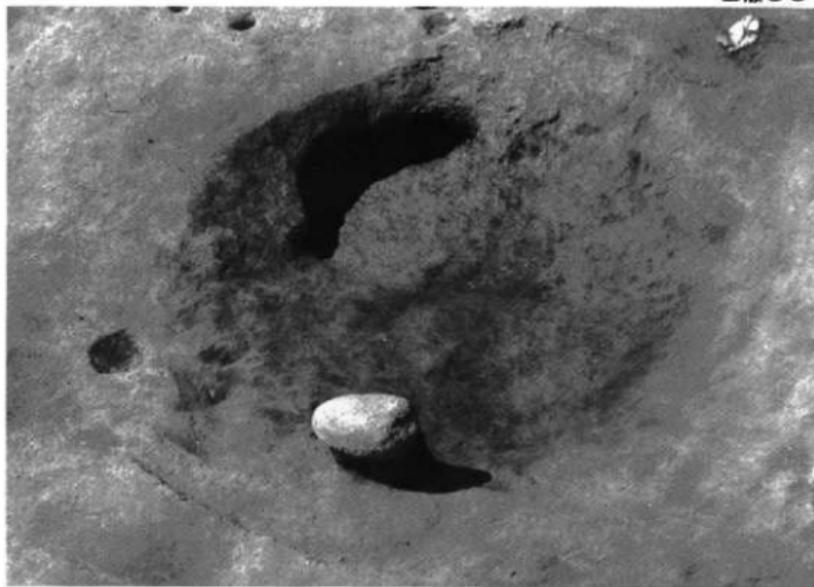
三磯林 E 遺跡近景（西方より）



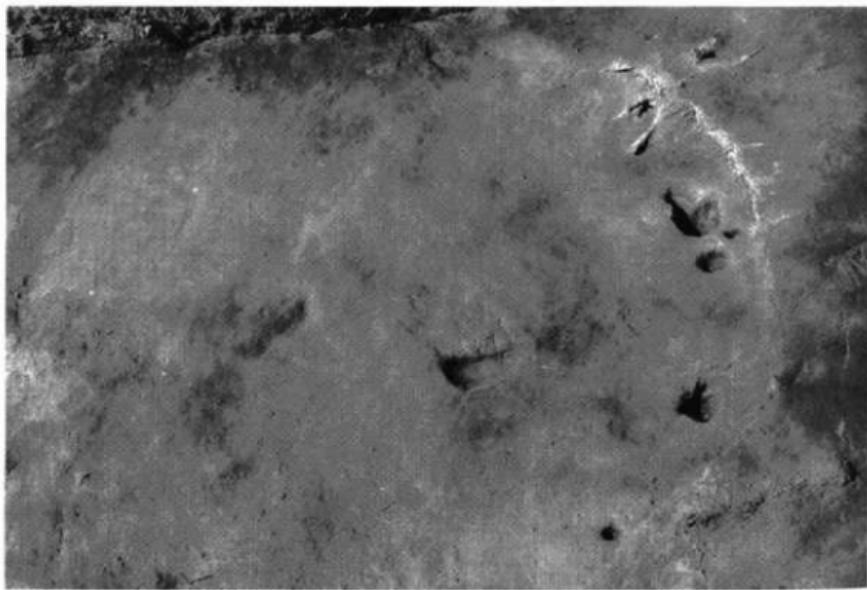
三砾林 E 遺跡 1 号住居跡



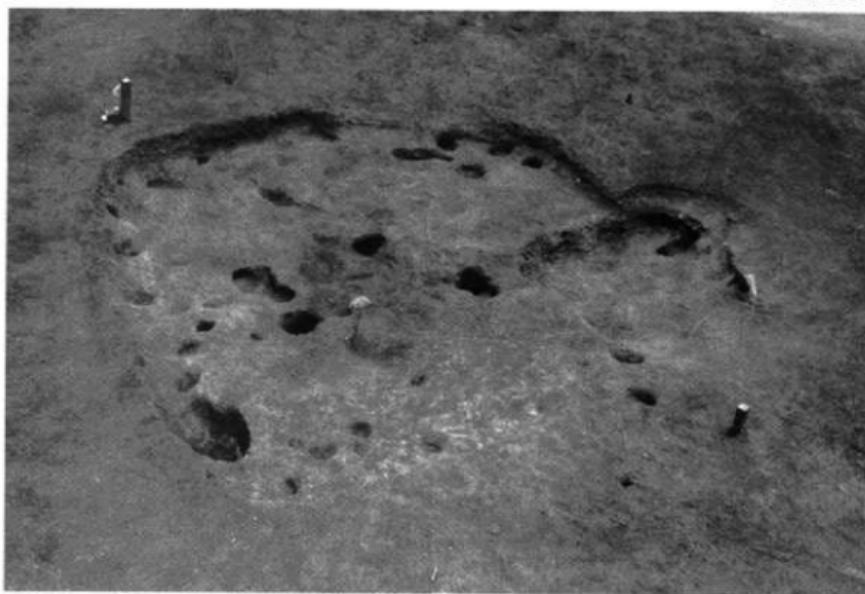
1 号住居跡出土土器



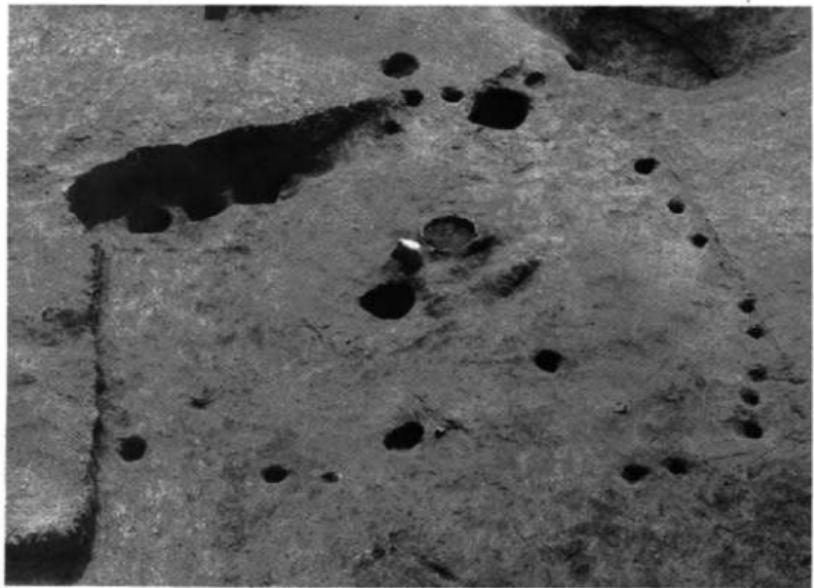
三砾林 E 遗迹 2 号小凹穴



三砾林 E 遗迹 3 号住居跡



三砾林 E 遺跡 4 号住居跡



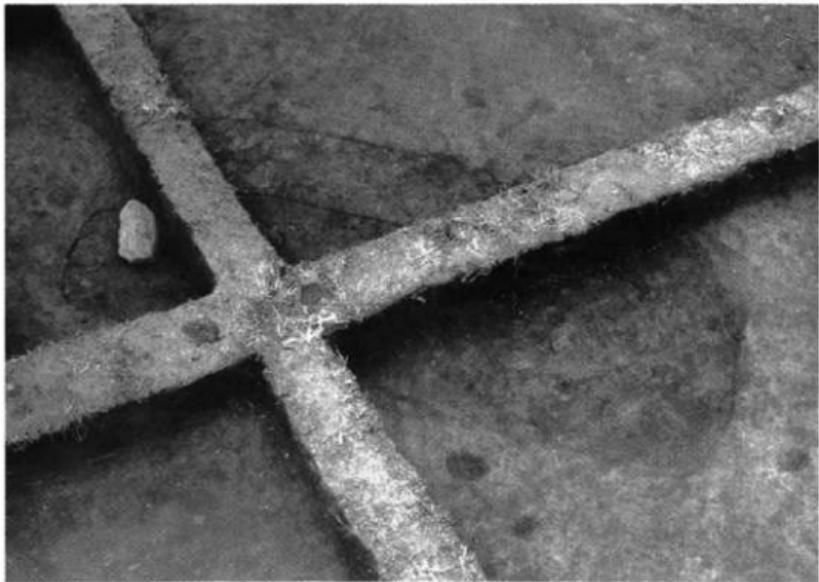
5 号住居跡



三壁林 E 遺跡 3 号土塁



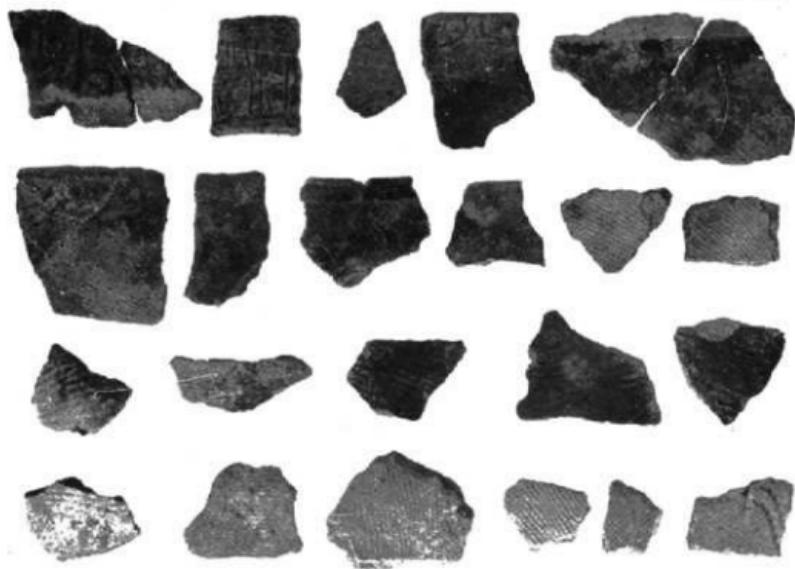
ピット 17



三穗林 E 遗迹 4 号土壤



4 号 土 壤



三穗林 E 遺跡出土土器



三穗林 E 遺跡出土土器



丸山遺跡調査区遠景



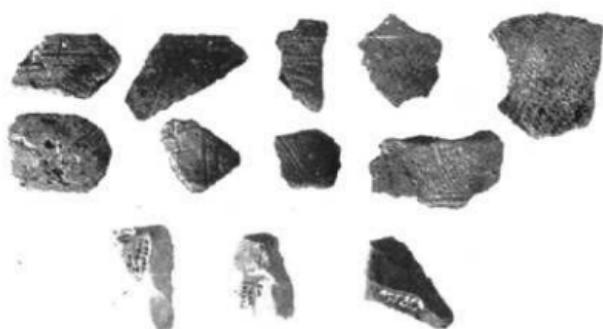
丸山遺跡調査区遠景



丸山遺跡 1 号土塙



丸山遺跡 2 号土塙



遺跡出土土器・石器



三碑林 E 遺跡出土石器



山形県埋蔵文化財調査報告書第六集

山 形 県 文 化 財
発 掘 調 査 報 告 書

昭和48・49年度山形県営農林事業関係遺跡

昭和51年3月25日印刷
昭和51年3月31日発行

発行 山形県教育委員会
印刷 大風印刷